

(様式第 10)

和医大経 350 号
平成 27 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 公立大学法人和歌山県立医科大学 (印)

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1
氏 名	公立大学法人和歌山県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

和歌山県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒641-8510 和歌山市紀三井寺811番地1	電話(073)441-2300
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 糖尿病・内分泌・代謝内科 2 消化器内科 3 呼吸器内科・腫瘍内科 4 循環器内科 5 腎臓内科（人工透析） 6 血液内科 7 神経内科 8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無				
外科と組み合わせた診療科名					
1 心臓血管外科 2 呼吸器外科・乳腺外科 3 消化器・内分泌・小児外科 4 形成外科					
5	6	7	8	9	10
11	12	13	14		
診療実績					

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無				
歯科と組み合わせた診療科名					
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6
歯科の診療体制					

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3 神経精神科	4 リウマチ・膠原病科			
5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	床	床	760床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	384人	67人	392.5人	看護補助者	61人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	15人	2人	15.2人	理学療法士	13人	臨床検査技師	44人
薬 剤 師	30人	3人	32.2人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	1人	0人	1人	視能訓練士	3人	その他	0人
助 産 師	38人	1人	38.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	714人	20人	731.4人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	11人
准看護師	8人	3人	10.6人	栄 養 士	0人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	1人	事務職員	163人
管理栄養士	6人	2人	8人	診療放射線技師	37人	その他の職員	7人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	12人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	44人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	9人
小児科専門医	17人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	16人
産婦人科専門医	11人	救急科専門医	7人
		合 計	183人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	626.1人	8.9人	635.0人
1日当たり平均外来患者数	933.1人	56.9人	990.0人
1日当たり平均調剤数			822.9剤
必要医師数			125人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			22人
必要(准)看護師数			354人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	417m ²	鉄骨造	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 339m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	3床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	903m ²	鉄骨造	(主な設備) 検体前処理装置、臨床化学測定装置、免疫測定装置、遺伝子解析システム、血液ガス分析装置、血球分析装置、血液凝固線溶測定装置、等			
細菌検査室	90m ²	鉄骨造	(主な設備) 細菌同定・感受性装置、血液培養検査装置、抗酸菌培養検査システム、抗酸菌遺伝子解析システム、ドラフトチャンバー、ふ卵器、蒸気滅菌器、等			
病理検査室	191m ²	鉄骨造	(主な設備) 臓器切出し用ドラフトチャンバー、臓器包埋脱水装置、パラフィンブロック作成装置、薄切装置、染色機、顕微鏡、等			
病理解剖室	260m ²	鉄骨造	(主な設備) 解剖台、臓器標本撮影装置、遺体冷蔵庫、標本保管庫、等			
研究室	15,458m ²	鉄骨造	(主な設備) デジタル顕微鏡システム、蛍光顕微鏡システム、細胞イメージ解析装置、セルソーター等			
講義室	546m ²	鉄骨造	室数	2室	収容定員	260人
図書室	2,216m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	9室	蔵書数	110,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	76.1%	逆紹介率	70.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数	15,268人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,022人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,194人	
	D: 初診の患者の数	24,272人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	27人	・膿疱性乾癬	80人
・多発性硬化症	41人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・重症筋無力症	52人	・原発性胆汁性肝硬変	62人
・全身性エリテマトーデス	169人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	17人
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	19人
・サルコイドーシス	69人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	30人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	138人	・網膜色素変性症	11人
・特発性血小板減少性紫斑病	62人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	14人	・肺動脈性肺高血圧症	15人
・潰瘍性大腸炎	160人	・神経線維腫症	41人
・大動脈炎症候群	20人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	15人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	28人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	28人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	89人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋委縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	513人	・球脊髄性筋委縮症	4人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	23人
・後縦靭帯骨化症	191人	・肥大型心筋症	50人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	15人	・ミトコンドリア病	14人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	9人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18人	・黄色靭帯骨化症	51人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	86人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
摂食調節における遊離脂肪酸の役割に関する基礎的検討	有安 宏之	内科学第1	1,950	(補)委 日本学術振興会
免疫調節性ペプチドとSiglecリガンドによるバセドウ病の抗原特異的新規治療法	稲葉 秀文	内科学第1	1,820	(補)委 日本学術振興会
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	赤水 尚史	内科学第1	17,200	(補)委 厚生労働省
胃酸分泌低下の腸内細菌叢への影響と腸管疾患との関連	加藤 順	内科学第2	1,300	(補)委 日本学術振興会
胃-腸-骨連関による骨の慢性炎症の解明	井口 幹崇	内科学第2	1,560	(補)委 日本学術振興会
エピジェネティクスを利用した新規胃癌リスクマーカーの開発	前北 隆雄	内科学第2	398	(補)委 日本学術振興会
山椒由来抗アレルギー成分探索とその作用機序の解明	河野 良平	機能性食品探索講座 (内科学第2)	1,430	(補)委 日本学術振興会
Helicobacter Pylori 関連慢性胃炎の進展に及ぼす喫煙の影響の検討	一瀬 雅夫	内科学第2	2,000	(補)委 (公財)喫煙科学研究財団
網羅的キナーゼ活性プロファイリングによるがん治療標的の探索研究	洪 泰浩	内科学第3	779	(補)委 日本学術振興会
COPD患者の予後改善に向けた新しい個別化治療ストラテジーの構築	南方 良章	内科学第3	1,560	(補)委 日本学術振興会
好酸球性肺炎における窒素化ストレス及び新たな炎症性メディエーターの解明	赤松 啓一郎	内科学第3	1,950	(補)委 日本学術振興会
胸部悪性腫瘍における分子生物学的診断の試みと新規バイオマーカーの探索研究	山本 信之	内科学第3	1,082	(補)委 日本学術振興会
喘息と鼻副鼻腔炎:炎症制御因子を介した病態生理学的関連性の解明	岡 亜早子	内科学第3	1,950	(補)委 日本学術振興会
難治性喘息におけるTNFLIGHTと窒素化ストレスのクロストークと制御機構の研究	平野 綱彦	内科学第3	1,820	(補)委 日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患における27-hydroxycholesterolの役割の解明	菊池 崇史	内科学第3	1,560	(補)委 日本学術振興会
喘息とCOPDのオーバーラップ症候群:分子生化学的アプローチによる病態生理の解明	松永 和人	内科学第3	1,300	(補)委 日本学術振興会
進展型小細胞肺癌に対する予防的全能照射の実施の有無を比較するランダム化比較第Ⅲ相試験	山本 信之	内科学第3	20,000	(補)委 厚生労働省
末梢血cell free DNAを用いた網羅的・定量的遺伝子変異解析の探索研究	赤松 弘朗	内科学第3	2,210	(補)委 日本学術振興会
がん超早期診断・治療機器の総合研究開発	洪 泰浩	内科学第3	69,873	(補)委 新エネルギー・産業技術総合開発機構
血液からのEGFR遺伝子変異検出を目的とした、肺癌におけるEGFR-TKIコンパニオン診断薬の開発	洪 泰浩	内科学第3	4,550	(補)委 科学技術振興機構
「早期診断マルチバイオマーカー開発」(循環腫瘍細胞捕捉診断システムの研究開発)	山本 信之	内科学第3	13,860	(補)委 文部科学省
肺構成細胞の細胞老化の機序の解明～慢性閉塞性肺疾患の病態制御を目指して～	市川 朋宏	内科学第3	1,820	(補)委 日本学術振興会
エリスロポエチンによる心筋梗塞再灌流後の冠循環改善効果についての研究	平田 久美子	循環器内科学	0	(補)委 日本学術振興会
冠動脈プラーク内マクロファージ数がプラーク破裂に及ぼす影響についての検討	田中 篤	循環器内科学	650	(補)委 日本学術振興会
心筋梗塞後急性期における血糖日内変動の心筋救済に及ぼす影響とその治療法の確立	寺口 郁子	循環器内科学	1,690	(補)委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ミノサイクリンによる心サルコイドーシスの肉芽腫性炎症抑制効果についての研究	折居 誠	循環器内科学	1,300	(補)委 日本学術振興会
非侵襲的自律神経評価方法の開発と臨床応用	羽野 卓三	教育研究開発センター(循環器内科学)	650	(補)委 日本学術振興会
心筋梗塞後の冠血管プラークの不安定化の機序とその治療法	今西 敏雄	循環器内科学	1,690	(補)委 日本学術振興会
急性心筋梗塞の発症に関わる動脈硬化性脂質コアを検出できる光干渉断層法の開発	久保 隆史	循環器内科学	2,080	(補)委 日本学術振興会
腎機能低下に伴うMg代謝異常の骨由来リン利尿因子と抗加齢蛋白に対する効果の検討	大矢 昌樹	腎臓内科学	1,560	(補)委 日本学術振興会
線維芽細胞増殖因子23の脾臓における発現の生物学的意義についての解析	美馬 亨	腎臓内科学	1,040	(補)委 日本学術振興会
B細胞性腫瘍発生におけるmicroRNA142過剰発現の役割	園木 孝志	血液内科学	1,040	(補)委 日本学術振興会
特発性造血障害におけるNKG2Dリガンド発現の臨床的意義の確立	花岡 伸佳	血液内科学	1,820	(補)委 日本学術振興会
オプチニューリン機能異常を基盤としたALSの発症機序解明と新規治療候補薬の開発	伊東 秀文	神経内科学	5,720	(補)委 日本学術振興会
和歌山県ALS多発地における認知症とパーキンソン認知症複合の発症状況に関する研究	廣西 昌也	神経内科学	1,690	(補)委 日本学術振興会
廃用性骨格筋萎縮におけるバイオマーカーの確立とその臨床的有用性の検討	村田 顕也	神経内科学	1,950	(補)委 日本学術振興会
パーキンソン病および関連疾患における姿勢異常の病態の解明と治療法の開発	村田 顕也	神経内科学	102	(補)委 日本学術振興会
ALSにおけるオプチニューリン、NFkB関連タンパクの剖検脳脊髄を用いた免疫染色による検討	綾木 孝	神経内科学	1,000	(補)委 (公信)「生命の彩」ALS研究助成基金 受託者三井住友信託銀行
IgA腎症進行にインフラマソームが果たす役割の解析とその応用による新治療法の開発	吉川 徳茂	小児科学	4,420	(補)委 日本学術振興会
難治性川崎病に対するNFAT経路遮断薬による新たな治療法開発の試み	武内 崇	小児科学	1,170	(補)委 日本学術振興会
川崎病発症メカニズム解明に対する新たな分子遺伝学的検討	鈴木 啓之	小児科学	1,560	(補)委 日本学術振興会
マイクロRNAに着目した多発性嚢胞腎病態生理に基づく疾患特異的治療の開発	中西 浩一	小児科学	2,210	(補)委 日本学術振興会
多発性嚢胞腎におけるfibrocyte線維化促進機序の分子生物学的解明	浜 武継	小児科学	1,430	(補)委 日本学術振興会
シクロスポリンAとIVIgに対する免疫応答の相違分析による難治性川崎病の病態解明	垣本 信幸	小児科学	1,690	(補)委 日本学術振興会
メサンギウムIgA受容体に着目した小児IgA腎症発症メカニズムの解明	島 友子	小児科学	910	(補)委 日本学術振興会
統合失調症におけるアセチルコリン、GABA/グルタミン酸機能と認知機能障害の関連	高橋 隼	神経精神医学	780	(補)委 日本学術振興会
統合失調症の認知機能障害に対するrTMSの治療機作のGABA機能評価による検討	鵜飼 聡	神経精神医学	910	(補)委 日本学術振興会
機能的結合fMRI、拡散テンソル画像による抗てんかん薬の反応性の検討	辻 富基美	神経精神医学	780	(補)委 日本学術振興会
過重労働者に対するiCBTの有効性とNIRSを用いたCBTの神経基盤の検討	坂本 友香	神経精神医学	650	(補)委 日本学術振興会
脳部位間結合性の包括的な神経生理学的検討による統合失調症と気分障害の病態解明	篠崎 和弘	神経精神医学	1,820	(補)委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
うつ病リワークプログラムによるToM課題障害改善の可能性と脳機能画像の変化の検討	山本 眞弘	神経精神医学	650	(補)委 日本学術振興会
嗅覚・アセチルコリン系障害仮説で探るDUP(精神病未治療期間)	正山 勝	神経精神医学	264	(補)委 日本学術振興会
蛋白質を使った心筋保護法の開発と異種移植心超急性拒絶回避応用への研究	湯崎 充	外科学第1	1,950	(補)委 日本学術振興会
膵癌に対するiPS細胞由来樹状細胞を応用した革新的ペプチドワクチン療法の開発	山上 裕機	外科学第2	5,460	(補)委 日本学術振興会
癌幹細胞の細胞周期機構を標的とした新規癌ワクチン療法の開発	松田 健司	外科学第2	390	(補)委 日本学術振興会
包括的SNPアレイ解析と遺伝子発現プロファイルの統合から導いた新規膵癌治療戦略	廣野 誠子	外科学第2	520	(補)委 日本学術振興会
特殊光観察を応用した新規腹腔鏡下大腸癌手術法の開発	堀田 司	外科学第2	1,820	(補)委 日本学術振興会
癌幹細胞を標的としたiPS細胞由来細胞傷害性T細胞を用いた新規癌免疫療法の開発	中村 公紀	外科学第2	2,730	(補)委 日本学術振興会
Exosomal CEACAM1をターゲットとした大腸癌新規腫瘍マーカーの開発	横山 省三	外科学第2	2,210	(補)委 日本学術振興会
ヒト腫瘍抗原遺伝子導入iPS細胞由来樹状細胞を用いた癌ワクチン療法	尾島 敏康	外科学第2	2,990	(補)委 日本学術振興会
胃癌治療用個別化対応ウイルスの改良と効果予測モデルの確立	中森 幹人	外科学第2	2,470	(補)委 日本学術振興会
腫瘍局所におけるIL23/Th17 pathway制御による新規分子標的の開発	飯田 武	外科学第2	2,080	(補)委 日本学術振興会
アディポネクチン動態からみた膵癌発癌機序の解明	谷 眞至	外科学第2	1,820	(補)委 日本学術振興会
胆汁中サイトカイン網羅的解析による胆道ドレナージ後膵切術後合併症早期診断法の確立	川井 学	外科学第2	2,210	(補)委 日本学術振興会
壊死性腸炎発症の解明: microchimerism可視化ラットを用いたアプローチ	渡邊 高士	外科学第2	1,040	(補)委 日本学術振興会
壊死性腸炎発症における サイトカインストームの 病態解明と治療戦略	窪田 昭男	外科学第2	1,040	(補)委 日本学術振興会
iPS細胞由来樹状細胞とオートファジー誘導分子搭載ウイルスによる膵癌免疫療法	山上 裕機	外科学第2	1,300	(補)委 日本学術振興会
食道癌に対する新規アジュバントHVJ-E併用癌ワクチン療法の開発	勝田 将裕	外科学第2	780	(補)委 日本学術振興会
ヒストンメチル基置換酵素SETD8を標的とした肝細胞癌の新規分子標的治療薬の開発	速水 晋也	外科学第2	1,040	(補)委 日本学術振興会
プロテアソームの形態制御によるユビキチン融合遺伝子導入樹状細胞癌ワクチンの新戦略	宮澤 基樹	外科学第2	1,820	(補)委 日本学術振興会
IPMN由来浸潤癌に対する新規治療標的遺伝子の検証とペプチドワクチン療法の開発	清水 敦史	外科学第2	1,430	(補)委 日本学術振興会
大腸癌における間質線維芽細胞の活性度と癌の悪性度に関する研究	家田 淳司	中央内視鏡部(外科学第2)	1,170	(補)委 日本学術振興会
消化器癌腹膜転移に対するIL-17をターゲットとした新規分子標的療法の開発	早田 啓治	外科学第2	1,170	(補)委 日本学術振興会
サイトカインシグナルを応用した胃癌治療用ヘルペスウイルスの開発	松村 修一	外科学第2	1,170	(補)委 日本学術振興会
CEACAM1誘導薬剤による肝芽腫の抗癌剤感受性増強に関する基礎的臨床的研究	三谷 泰之	外科学第2	1,300	(補)委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胃癌特異的癌治療用ウイルスの開発と腫瘍免疫誘導能の解析	竹内 昭博	外科学第2	1,040	(補)委 日本学術振興会
膀胱癌に対する術後再発予防のための2方向性新規ペプチドワクチン療法の開発	山上 裕機	外科学第2	151,278	(補)委 厚生労働省
MRIによる流体解析を用いた頸動脈狭窄症のhigh risk groupの同定	新谷 亜紀	脳神経外科学	3,120	(補)委 日本学術振興会
てんかん外科における安静時機能的MRIと頭蓋内脳波の検討	西林 宏起	脳神経外科学	650	(補)委 日本学術振興会
脊髄後角における顆粒球コロニー刺激因子がもたらす鎮痛作用メカニズムの解明	筒井 俊二	整形外科	1,560	(補)委 日本学術振興会
低侵襲脊椎手術実現のための新しい機能診断方法の開発	岩崎 博	整形外科	1,690	(補)委 日本学術振興会
地域住民コホート研究による腰部脊柱管狭窄症の自然経過の解明	山田 宏	整形外科	1,040	(補)委 日本学術振興会
脊椎脊髄手術時の神経機能モニタリングにおける新しい大脳刺激法の開発	中川 幸洋	整形外科	2,340	(補)委 日本学術振興会
サルコペニアと脊椎アライメント変化に着目した運動機能低下診断・予測ツールの開発	橋爪 洋	整形外科	1,950	(補)委 日本学術振興会
びまん性特発性骨増殖症の予後と脊椎椎体骨折との関連:住民コホートの追跡	籠谷 良平	整形外科	1,690	(補)委 日本学術振興会
住民コホート研究の追跡調査による脊椎退行性変化の危険因子と頸部痛・腰痛の解明	寺口 真年	整形外科	1,430	(補)委 日本学術振興会
TRPA1/M8は脊髄で痛みを増強する-in vivoパッチクランプ法による解析	山中学	整形外科	3,510	(補)委 日本学術振興会
尿路上皮癌に対する免疫抑制物質IDOを用いた新規免疫療法の開発	原 勲	泌尿器科学	910	(補)委 日本学術振興会
尿路上皮癌患者に対する多剤併用化学療法の効果予測を目的としたバイオマーカーの確立	松村 永秀	泌尿器科学	130	(補)委 日本学術振興会
survivin導入樹状細胞と新規癌抗原C10orf3を併用した遺伝子免疫療法	藤井 令央奈	泌尿器科学	2,210	(補)委 日本学術振興会
癌幹細胞抗原DNAJB8を標的としたペプチド免疫療法の確立	西澤 哲	泌尿器科学	1,820	(補)委 日本学術振興会
メタボリックシンドロームの改善による尿路結石症予防効果の検討	射場 昭典	泌尿器科学	1,300	(補)委 日本学術振興会
ケモカインと免疫抑制シグナル及び血管内皮前駆細胞との相互的な卵巣癌促進機構の解明	井篁 一彦	産科・婦人科学	1,950	(補)委 日本学術振興会
卵巣癌におけるCX3CL1-CX3CR1システムの分子病態生理学的役割の解明	谷崎 優子	産科・婦人科学	1,430	(補)委 日本学術振興会
1児SGAの2絨毛膜双胎モデルによる胎児発育不全発症機序と予後予測因子の解明	城 道久	産科・婦人科学	2,730	(補)委 日本学術振興会
上皮間葉系移行を標的とした脈絡膜悪性腫瘍の浸潤・転移抑制治療の開発	田中 才一	眼科学	650	(補)委 日本学術振興会
TRPチャネルを介した眼組織血管新生に対する新しい治療戦略の確立	岡田 由香	眼科学	1,170	(補)委 日本学術振興会
TGFβシグナルのTRPによる調節を標的とした眼線維化疾患の新規治療戦略の確立	雑賀 司珠也	眼科学	1,300	(補)委 日本学術振興会
自律神経障害によるドライアイに関する基礎的、臨床的研究と新規治療の研究	友寄 勝夫	眼科学	1,040	(補)委 日本学術振興会
ヒト臍帯由来間葉系幹細胞移植による眼表面瘢痕組織の再生	山中 修	眼科学	1,560	(補)委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
TRPチャンネル制御における難治性神経麻痺性角膜上皮障害の新規治療法の開発	住岡 孝吉	眼科学	910	(補) 委 日本学術振興会
光触媒表面処理IOLによる新たな後発白内障抑制方法の検討	石川 伸之	眼科学	1,170	(補) 委 日本学術振興会
急性中耳炎難治化に対する肺炎球菌フェーズ変化の抑制による治療戦略に関する研究	戸川 彰久	耳鼻咽喉科学	1,560	(補) 委 日本学術振興会
母体経鼻免疫における仔マウスにおける免疫学的メモリーの研究	保富 宗城	耳鼻咽喉科学	1,690	(補) 委 日本学術振興会
鼻咽腔細菌叢評価に及ぼす抗菌薬の影響の網羅的遺伝子解析と、抗菌薬適正使用の検討	小上 真史	耳鼻咽喉科学	1,560	(補) 委 日本学術振興会
インフルエンザ菌バイオフィルムに対する抗菌薬の薬物動態についての研究	竹井 慎	耳鼻咽喉科学	1,430	(補) 委 日本学術振興会
網羅的遺伝子解析による中耳細菌叢評価と、鼓膜換気チューブ挿入の治療効果の検討	杉田 玄	耳鼻咽喉科学	1,170	(補) 委 日本学術振興会
インフルエンザ菌に対する最小バイオフィルム抑制濃度に基づく新治療戦略の研究	竹井 慎	耳鼻咽喉科学	1,246	(補) 委 日本学術振興会
マイクロRNAによる頭頸部癌転移のリスク診断の試み	玉川 俊次	耳鼻咽喉科学	120	(補) 委 日本学術振興会
プロテアソーム阻害剤による皮膚障害におけるPSMB8の変異解析	国本 佳代	皮膚科	1,950	(補) 委 日本学術振興会
顎関節内障におけるテネインCの働き	東條 格	歯科口腔外科学	1,560	(補) 委 日本学術振興会
顎関節内障における性ホルモンの影響	藤田 茂之	歯科口腔外科学	1,560	(補) 委 日本学術振興会
抗癌剤を組み込んだ溶解型ゼラチンマイクロスクエアの抗癌剤徐放性の基礎的研究	佐藤 守男	放射線医学	390	(補) 委 日本学術振興会
正常豚胆嚢動脈塞栓術における組織障害の比較検討	三田 裕記	放射線医学	900	(補) 委 日本学術振興会
放射線治療時の危険臓器移動法の開発	岸 和史	放射線医学	274	(補) 委 日本学術振興会
陽性情動やエンリッチ環境が脳内エピジェネティクス修飾に及ぼす影響と疼痛制御	仙波 恵美子	リハビリテーション科	4,680	(補) 委 日本学術振興会
野生株ポリオとワクチンポリオの相違についての比較検討	青木 秀哲	リハビリテーション科	1,209	(補) 委 日本学術振興会
神経障害性疼痛による大腰筋の左右差の形成に対する姿勢保持神経機構の関与	上 勝也	リハビリテーション科	650	(補) 委 日本学術振興会
母親の高脂肪食摂取が胎児の神経発生と行動に及ぼす影響:発達障害のモデルとして	仙波 恵美子	リハビリテーション科	650	(補) 委 日本学術振興会
開胸または開腹術を施行される消化器癌患者の術前運動負荷トレーニングの効果	佐々木 裕介	リハビリテーション科	1,560	(補) 委 日本学術振興会
視床障害者における皮膚交感神経活動測定と局所温熱療法の作用機序の解明	神埜 奈美	リハビリテーション科	650	(補) 委 日本学術振興会
運動が神経障害疼痛を緩和するメカニズムの解明	田口 聖	リハビリテーション科	350	(補) 委 (公財)日本理学療法士協会
がんの発育と痛みにおける痛覚神経とがんのクロストークの解明	川股 知之	麻酔科学	7,280	(補) 委 日本学術振興会
ライブセルイメージング法を用いた脊髄血流維持機構の解明と麻酔薬作用に関する新研究	吉村 聖子	麻酔科学	1,170	(補) 委 日本学術振興会
プロポフォール依存(中毒)に脳内報酬系のmiRNAが及ぼす影響	藤井 啓介	麻酔科学	1,300	(補) 委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体の血管反応性における役割と麻酔薬の影響	角谷 哲也	麻酔科学	1,820	(補)委 日本学術振興会
刺激特異説に基づき神経線維をターゲットとした新たな痛み治療法の開発	川股 知之	麻酔科学	1,560	(補)委 日本学術振興会
敗血症の経時的変化に対するカリウムチャネル阻害作用を有する鎮痛薬の効果	丹下 和晃	麻酔科学	910	(補)委 日本学術振興会
遺伝子一塩基多型解析から考証する妊娠期薬剤性冠動脈攣縮作用の解明	谷奥 匡	中央手術部(麻酔科学)	1,430	(補)委 日本学術振興会
がん性腹水の進展におけるアクアポリンチャネルの関与と機能解析—新薬開発をめざして	栗山 俊之	腫瘍センター(麻酔科学)	1,170	(補)委 日本学術振興会
術後認知機能障害と麻酔:fMRI機能的結合性解析による脳神経ネットワークの新研究	黒崎 弘倫	中央手術部(麻酔科)	1,300	(補)委 日本学術振興会
拡張現実テクノロジーを応用した区域麻酔穿刺針ターゲット誘導システムの開発研究	道幸 由香里	紀北分院(麻酔科)	1,300	(補)委 日本学術振興会
妊娠高血圧時脳ネットワーク異常と麻酔:安静時機能的磁気共鳴画像法による新研究	直川 里香	麻酔科学	1,300	(補)委 日本学術振興会
TGFベータ/Smadシグナルを標的とした皮膚の癒着の薬物療法の開発	木田 真紀	救急・集中治療医学教室	1,820	(補)委 日本学術振興会
高度凝固障害を伴う重症外傷TAEで救急医が平易に扱える強力な塞栓物質の新規開発	米満 尚史	救急・集中治療医学教室	1,560	(補)委 日本学術振興会
星状細胞内カルシウムシグナル伝達を介する高血圧時微小脳血流調節と麻酔薬作用の解明	中畑 克俊	総合周産期母子医療センター(麻酔科学)	1,170	(補)委 日本学術振興会
有効性と経済性から観た大学病院における職場環境アレルゲン削減への取り組みの評価	水本 一弘	医療安全推進部	1,560	(補)委 日本学術振興会
農業地域住民の循環器疾患発症と早期動脈硬化危険因子に関する研究	有田 幹雄	循環器内科学	1,170	(補)委 日本学術振興会

計13
合計138

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Takeshima K, Inaba H, Furukawa Y, Nishi M, Yamaoka H, Miyamoto W, Ota T, Doi A, Kawashima H, Ariyasu H, Wakasaki H, Furuta H, Nakao T, Sasaki H, Akamizu T	The First Department of Medicine, Wakayama Medical University	Elevated serum immunoglobulin g4 levels in patients with graves' disease and their clinical implications.	Thyroid 24(4):763-743, 2014
2	Ariyasu H, Iwakura H, Yukawa N, Murayama T, Yokode M, Tada H, Yoshimura K, Teramukai S, Ito T, Shimizu A, Yonezawa A, Kangawa K, Mimori T, Akamizu T	The First Department of Medicine, Wakayama Medical University	Clinical effects of ghrelin on gastrointestinal involvement in patients with systemic sclerosis.	Endocr J 61(7):735-742, 2014
3	Ariyasu H, Yamada G, Iwakura H, Matsumura S, Inoue K, Kangawa K, Nakao K, Akamizu T	The First Department of Medicine, Wakayama Medical University	Reduction in circulating ghrelin concentration after maturation does not affect food intake.	Endocr J 61(10):1041-52, 2014
4	Nakachi K, Tamai H, Mori Y, Shingaki N, Moribata K, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J, and Ichinose M	消化器内科	Prediction of poorly differentiated hepatocellular carcinoma using contrast computed tomography.	Cancer Imaging 14:7,2014.doi:10.1186/1470-7330-17-7
5	Mori Y, Tamai H, Shingaki N, Moribata K, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J, Terada M and Ichinose M	消化器内科	Signal intensity of small hepatocellular carcinoma on apparent diffusion coefficient mapping and outcome after radiofrequency ablation.	Hepatol Res .45:75-87,2014
6	Tamai H, Shimizu R, Shingaki N, Mori Y, Maeshima S, Nuta J, Maeda Y, Moribata K, Muraki Y, Deguchi H, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J and Ichinose M	消化器内科	Prediction of Sustained Virological Response to Telaprevir-Based Triple Therapy Using Viral Response within 2 Weeks.	Hepat Res Treat.2014;748935,2014
7	Mori Y, Tamai H, Shingaki N, Moribata K, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J, Terada M and Ichinose M	消化器内科	Signal intensity of small hepatocellular carcinoma on apparent diffusion coefficient mapping and outcome after radiofrequency ablation.	Hepatol Res .2014.Feb 18. doi: 10.1111/hepr.12311[Epub ahead of print]
8	Tamai H, Mori Y, Shingaki N, Kawashima A, Tsukuda H, Higashi K, Moribata K, Kawaguchi M, Ueda K, Deguchi H, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J, and Ichinose M	消化器内科	Low-dose pegylated interferon- α -2a plus ribavirin therapy for elderly and/or cirrhotic patients with hepatitis C virus genotype-1b and high viral load.	Antivir Ther.2014;19(1):107-15.
9	Tamai H, Mori Y, Shingaki N, Shimizu R, Nuta J, Moribata K, Maeda Y, Muraki Y, Deguchi H, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J, Takifuji K, Yamaue H and Ichinose M	消化器内科	Prognostic effect of response to interferon therapy after laparoscopic splenectomy among patients with marked thrombocytopenia and hepatitis C virus-related cirrhosis.	Hepatol Int(2014)DOI 10.1007/s12072-014-9586-9

10	Tamai H, Shimizu R, Shingaki N, Mori Y, Maeshima S, Nuta J, Maeda Y, Moribata K, Muraki Y, Deguchi H, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J and Ichinose M	消化器内科	Prediction of sustained virological response to telaprevir-based triple therapy using viral response within 2 Weeks.	Hepat Res Treat 2014 Sep 28;18[Epub ahead of print].
11	Yamashita Y, Kato J, Ueda K, Nakamura Y, Abe H, Tamura T, Itonaga M, Yoshida T, Maeda H, Moribata K, Niwa T, Maekita T, Iguchi M and Ichinose M.	消化器内科	Contrast-enhanced endoscopic ultrasonography can predict a higher malignant potential of gastrointestinal stromal tumors by visualizing large newly formed vessels.	J Clin Ultrasound.2014 Jul 16.doi:10.1002
12	赤松 弘朗	呼吸器内科・腫瘍内科	Progression-free survival at 2years is a reliable surrogate marker for the 5-year survival rate in patients with locally advanced non-small cell lung cancer treated with chemoradiotherapy	BMC Cancer 14:18,2014
13	赤松 弘朗	呼吸器内科・腫瘍内科	The impact of clinical outcomes according to EGFR mutation status in patients with locally advanced lung adenocarcinoma who received concurrent chemoradiotherapy	Am J Clin Oncol 37(2):144-147,2014
14	岡 亜早子	呼吸器内科・腫瘍内科	Ongoing allergic rhinitis impairs asthma control by enhancing the lower airway inflammation	J Allergy Clin Immunol Pract 2(2) 172-178,2014
15	赤松 弘朗	呼吸器内科・腫瘍内科	Multiplexed molecular profiling of lung cancer using pleural effusion	J Thorac Oncol 9(7):1048-1052,2014
16	上田 弘樹	呼吸器内科・腫瘍内科	Palonosetron exhibits higher total control rate compared to first-generation serotonin antagonists and improves appetite in delayed-phase chemotherapy-induced nausea and vomiting	Mol Clin Oncol 2:375-379,2014
17	前島 悦子	呼吸器内科・腫瘍内科	Residual salivary secretion ability may be a useful marker for differential diagnosis in autoimmune diseases	Disease Markers Article ID 534261 5pages,2014
18	南方 良章	呼吸器内科・腫瘍内科	Reduced level of physical activity in Japanese patients with COPD	Respir Investig 52(1) 41-48,2014
19	Nakamura M, Yamagishi M, Ueno T, Hara K, Ishiwata S, Itoh T, Hamanaka I, Wakatsuki T, Sugano T, Kawai K, Akasaka T, Tanaka N, Kimura T	循環器内科	Prevalence of visual-functional mismatch regarding coronary artery stenosis in the CVIT-DEFER registry.	Cardiovasc Interv Ther 29(4) : 300-308, 2014
20	Kubo T, Akasaka T	循環器内科	Can coronary angiography predict drug-eluting stent thrombosis?	Circ J 78(6) : 1428-1436, 2014
21	Ota S, Tanimoto T, Hirata K, Orii M, Shiono Y, Shimamura K, Ishibashi K, Yamano T, Ino Y, Kitabata H, Yamaguchi T, Kubo T, Imanishi T, Akasaka T	循環器内科	Assessment of circumferential endocardial extent of myocardial edema and infarction in patients with reperfused acute myocardial infarction - a cardiovascular magnetic resonance study-.	International Heart Journal 55(3) : 234-238, 2014
22	Shimamura K, Ino Y, Kubo T, Nishiguchi T, Tanimoto T, Ozaki Y, Satogami K, Orii M, Shiono Y, Komukai K, Yamano T, Matsuo Y, Kitabata H, Yamaguchi T, Hirata K, Tanaka A, Imanishi T, Akasaka T	循環器内科	Difference of ruptured plaque morphology between asymptomatic coronary artery disease and non-ST elevation acute coronary syndrome patients: An optical coherence tomography study.	Atherosclerosis 235(2):532-537, 2014
23	Kubo T, Tanaka A, Ino Y, Kitabata H, Shiono Y, Akasaka T	循環器内科	Assessment of coronary atherosclerosis by optical coherence tomography.	J Atheroscler Thromb 21(9) : 895-903, 2014

24	Shiono Y, Kubo T, Tanaka A, Kitabata H, Ino Y, Tanimoto T, Wada T, Ota S, Ozaki Y, Orii M, Shimamura K, Ishibashi K, Yamano T, Yamaguchi T, Hirata K, Imanishi T, Akasaka T	循環器内科	Impact of myocardial supply area on the transstenotic hemodynamics as determined by fractional flow reserve.	Catheter Cardiovasc Interv 84(3) : 406-413, 2014
25	Kubo T, Akasaka T, Kozuma K, Kimura K, Fusazaki T, Okura H, Shinke T, Ino Y, Hasegawa T, Takashima H, Takamisawa I, Yamaguchi H, Igarashi K, Kadota K, Tanabe K, Nakagawa Y, Muramatsu T, Morino Y, Kimura T	循環器内科	Vascular responses to drug-eluting stents with biodegradable polymer versus durable polymer: An optical coherence tomography sub-study of the NEXT	Circ J 78(10) : 2408-2414, 2014
26	Nakamura M, Yamagishi M, Ueno T, Hara K, Ishiwata S, Itho T, Hamanaka I, Wakatsuki T, Sugano T, Kawai K, Akasaka T, Tanaka N, Kimura T	循環器内科	Prevalence of visual-functional mismatch regarding coronary artery stenosis in the CVIT-DEFER registry	Cardiovascular Interv Ther 29(4) : 300-308, 2014
27	Nakanishi H, Hirata K, Tsujioka H, Yamano T, Tanimoto T, Ino Y, Yamaguchi T, Shimamoto Y, Kubo T, Tanaka A, Imanishi T, Terada M, Akasaka T	循環器内科	Incremental value of coronary flow velocity reserve, measured by transthoracic echocardiography, compared with computed tomography angiography alone, for detecting flow-limiting coronary stenosis.	Journal of the American Society of Echocardiography 27(11) : 1230-1237, 2014
28	Komukai K, Kubo T, Kitabata H, Matsuo Y, Ozaki Y, Takarada S, Okumoto Y, Shiono Y, Orii M, Shimamura K, Ueno S, Yamano T, Tanimoto T, Ino Y, Yamaguchi T, Hirata K, Tanaka A, Imanishi T, Akagi H, Akasaka T	循環器内科	Effect of atorvastatin therapy on fibrous cap thickness in coronary atherosclerotic plaque as assessed by optical coherence tomography	the EASY-FIT study. J Am Coll Cardiol 64(21) : 2207-2217, 2014
29	Orii M, Imanishi T, Akasaka T	循環器内科	Assessment of cardiac sarcoidosis with advanced imaging modalities.	Biomed Res Int 2014 : 897956, 2014
30	Shimokado A, Sun Y, Nakanishi M, Sato F, Oikawa K, Akasaka T, Muragaki Y	循環器内科	Smad3 plays an inhibitory role in phosphate-induced vascular smooth muscle cell calcification.	Experimental and Molecular Pathology 97(3) : 458-464, 2014
31	Choi BJ, Matsuo Y, Aoki T, Kwon TG, Prasad A, Gulati R, Lennon RJ, Lerman LO, Lerman A.	循環器内科	Coronary endothelial dysfunction is associated with inflammation and vasa vasorum proliferation in patients with early atherosclerosis.	Arterioscler Thromb Vasc Biol 34(11) : 2473-2477, 2014
32	Guddeti RR, Matsuo Y, Matsuzawa Y, Aoki T, Lennon RJ, Lerman LO, Kushwaha SS, Lerman A	循環器内科	Ischemic cardiomyopathy is associated with coronary plaque progression and higher event rate in patients after cardiac transplantation.	J Am Heart Assoc 3(4), 2014, pii: e001091. doi: 10.1161/JAHA.114.001091.
33	Han JK, Koo BK, Park KW, Ben-Dor I, Waksman R, Pichard A, Nam CW, Doh JH, Murata N, Tanaka N, Lee CH, Gonzalo N, Escaned J, Costa MA, Kubo T, Akasaka T, Hu X, Wang J, Yang HM, Yoon MH, Tahk SJ, Ma S, Park SK, Kim HS.	循環器内科	Optimal intravascular ultrasound criteria for defining the functional significance of intermediate coronary stenosis: an international multicenter study.	Cardiology 127(4) : 256-262, 2014

34	Shiono Y, Kubo T, Tanaka A, Ino Y, Yamaguchi T, Tanimoto T, Yamano T, Matsuo Y, Nishiguchi T, Teraguchi I, Ota S, Ozaki Y, Orii M, Shimamura K, Kitabata H, Hirata K, Imanishi T, Akasaka T	循環器内科	Long-term outcome after deferral of revascularization in patients with intermediate coronary stenosis and gray-zone fractional flow reserve.	Circ J 79(1): 91-95, 2015 2015 January
35	Shiono Y, Hirata K, Takemoto K, Akasaka T	循環器内科	Multiple mobile structures attached to the left ventricular wall in infective endocarditis.	Eur Heart J. 2015 Jan 21;36(4):213. doi: 10.1093/eurheartj/ehu340. Epub 2014 Sep 4.
36	Yamano T, Kubo T, Shiono Y, Shimamura K, Orii M, Tanimoto T, Matsuo Y, Ino Y, Kitabata H, Yamaguchi T, Hirata K, Tanaka A, Imanishi T, Akasaka T	循環器内科	Impact of eicosapentaenoic acid treatment on the fibrous cap thickness in patients with coronary atherosclerotic plaque: an optical coherence tomography study.	J Atheroscler Thromb. 2015;22(1):52-61. doi: 10.5551/jat.25593. Epub 2014 Aug 15. 2015 January
37	Shimamura K, Kubo T, Akasaka T, Kozuma K, Kimura K, Kawamura M, Sumiyoshi T, Ino Y, Yoshiyama M, Sonoda S, Igarashi K, Miyazawa A, Uzui H, Sakanoue Y, Shinke T, Morino Y, Tanabe K, Kadota K, Kimura T	循環器内科	Outcomes of everolimus-eluting stent incomplete stent apposition: a serial optical coherence tomography analysis.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2015 Jan;16(1):23-8. doi: 10.1093/ehjci/jeu174. Epub 2014 Oct 23.
38	Collin J, Gössl M, Matsuo Y, Cilluffo RR, Flammer AJ, Loeffler D, Lennon RJ, Simari RD, Spoon DB, Erbel R, Lerman LO, Khosla S, Lerman A.	循環器内科	Osteogenic monocytes within the coronary circulation and their association with plaque vulnerability in patients with early atherosclerosis.	Int J Cardiol. 2015 15;181:57-64. doi: 10.1016/j.ijcard.2014.11.156.
39	Guddeti RR, Matsuo Y, Matsuzawa Y, Aoki T, Lerman LO, Kushwaha SS, Lerman A.	循環器内科	Clinical implications of intracoronary imaging in cardiac allograft vasculopathy.	Circ Cardiovasc Imaging. 2015;8(1). pii: e002636. doi: 10.1161/CIRCIMAGING.114.002636.
40	Aoki T, Rodriguez-Porcel M, Matsuo Y, Cassar A, Kwon TG, Franchi F, Gulati R, Kushwaha SS, Lennon RJ, Lerman LO, Ritman EL, Lerman A.	循環器内科	Evaluation of coronary adventitial vasa vasorum using 3D optical coherence tomography--animal and human studies.	Atherosclerosis. 2015; 239(1):203-8. doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2015.01.016.
41	Ishibashi K, Kubo T, Kitabata H, Takarada S, Shimamura K, Tanimoto T, Orii M, Shiono Y, Yamano T, Ino Y, Yamaguchi T, Hirata K, Tanaka A, Imanishi T, Akasaka T.	循環器内科	Improvement of cardiac function by increasing stimulus strength during left ventricular pacing in cardiac resynchronization therapy.	Int Heart J. 2015 Jan 21;56(1):62-6. doi: 10.1536/ihj.14-128. Epub 2014 Dec 11.
42	Tsuyoshi Nishiguchi, Toshio Imanishi, Takashi Akasaka.	循環器内科	MicroRNAs and Cardiovascular Diseases.	BioMed Research International Volume 2015 (2015), Article ID 682857, 14 pages http://dx.doi.org/10.1155/2015/682857 Biomed Res Int. 2015;2015:682857. doi: 10.1155/2015/682857. Epub 2015 Feb 1.

43	Kubo T, Yamano T, Liu Y, Ino Y, Shiono Y, Orii M, Taruya A, Nishiguchi T, Shimokado A, Teraguchi I, Tanimoto T, Kitabata H, Yamaguchi T, Hirata K, Tanaka A, Akasaka T.	循環器内科	Feasibility of optical coronary tomography in quantitative measurement of coronary arteries with lipid-rich plaque.	Circ J. 2015 Feb 25;79(3):600-6. doi: 10.1253/circj.CJ-14-1085. Epub 2014 Dec 10.
44	Taruya A, Tanaka A, Nishiguchi T, Iwaguro T, Ueno S, Okumoto Y, Kubo T, Akagi H, Akasaka T.	循環器内科	Necessity of magnetic resonance imaging examinations after permanent pacemaker implantation.	Int J Cardiol. 2015 Feb 25;184:497-498. doi: 10.1016/j.ijcard.2015.02.080. [Epub ahead of print] No abstract available.
45	Honda K, Okamura Y, Nishimura Y, Uchita S, Yuzaki M, Kaneko M, Yamamoto N, Kubo T, Akasaka T.	循環器内科	Graft flow assessment using a transit time flow meter in fractional flow reserve-guided coronary artery bypass surgery.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2015 Feb 28. pii: S0022-5223(15)00293-7. doi: 10.1016/j.jtcvs.2015.02.050. [Epub ahead of print]
46	Orii M, Hirata K, Tanimoto T, Shiono Y, Shimamura K, Yamano T, Ino Y, Yamaguchi T, Kubo T, Tanaka A, Imanishi T, Akasaka T.	循環器内科	Myocardial Damage Detected by Two-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiography in Patients with Extracardiac Sarcoidosis Comparison with Magnetic Resonance Imaging.	J Am Soc Echocardiogr. 2015 Mar 30. pii: S0894-7317(15)00140-6. doi: 10.1016/j.echo.2015.02.018. [Epub ahead of print] PMID: 25835340 Related citations
47	Orii M, Imanishi T, Teraguchi I, Nishiguchi T, Shiono Y, Yamano T, Ino Y, Hirata K, Kubo T, Tanaka A, Akasaka T.	循環器内科	Circulating CD14 ⁺⁺ CD16 ⁺ Monocyte Subsets as a Surrogate Marker of the Therapeutic Effect of Corticosteroid Therapy in Patients With Cardiac Sarcoidosis.	Circ J. 2015 Mar 31. [Epub ahead of print]
48	Miwa Kurimoto	Hematology/oncology Wakayama Medical University	Severe Enteropathy Caused by α -Heavy Chain Disease Lacking Detectable M-proteins	Intern Med 53(6):581-585,2014
49	Takashi Sonoki	Hematology/oncology Wakayama Medical University	PVT1:A Cancer-associated Non-coding Gene Revisited	Clon Transgen 3:120,doi:10.4172/2168-9849.1000120,2014
50	Shigematsu T, Ohya M, Okamoto M, Tatsuta K, Mima T.	Wakayama Medical University Nephrology	Conservative management and pharmacological intervention for CKD-related mineral and bone disorder.	Nihon Jinzo Gakkai Shi. 2014;56(8):1243-50
51	Negi S, Koreeda D, Shigematsu T.	Wakayama Medical University Nephrology	Acute kidney injury: progress in diagnosis and treatments. Topics: V. Prevention and treatments; 3. Renal replacement therapy for acute kidney injury.	Nihon Naika Gakkai Zasshi. 2014 May 10;103(5):1145-52
52	Ohya M, Negi S, Sakaguchi T, Koiwa F, Ando R, Komatsu Y, Shinoda T, Inaguma D, Joki N, Yamaka T, Ikeda M, Shigematsu T.	Wakayama Medical University Nephrology	Significance of serum magnesium as an independent correlative factor on the parathyroid hormone level in uremic patients.	J Clin Endocrinol Metab. 2014 Oct;99(10):3873-8
53	Ohya M, Shigematsu T.	Wakayama Medical University Nephrology	A new xanthine oxidase inhibitor: the uric acid reduction and additional efficacy in CKD patients.	Clin Exp Nephrol. 2014 Dec;18(6):835-6
54	Negi S, Masumoto K, Tatsuta K, Shigematsu T.	Wakayama Medical University Nephrology	Therapeutic consideration in the intensive care unit of patients with chronic kidney disease or end-stage renal disease.	Nihon Jinzo Gakkai Shi. 2015;57(2):296-301
55	Okamoto M, Yamanaka S, Yoshimoto W, Shigematsu T.	Wakayama Medical University Nephrology	Alendronate as an effective treatment for bone loss and vascular calcification in kidney transplant recipients.	J Transplant. 2014;2014:269613. doi: 10.1155/2014/269613.
56	Nakata M, Okada Y, Kobata H, Shigematsu T, Reinach PS, Tomoyose K, Saika S.	Wakayama Medical University Nephrology	Diabetes mellitus suppresses hemodialysis-induced increases in tear fluid secretion.	BMC Res Notes. 2014 Feb 4;7:78. doi: 10.1186/1756-0500-7-78.
57	Murata KY,Ito H.	Department of Neurology,Wakayama Medical University	The etiology and pathogenesis of sporadic inclusion body myositis	Brain Nerve. 66(11):1385-94,2014

58	Ayaki T, Ito H, Fukushima H, Inoue T, Kondo T, Ikemoto A, Asano T, Shodai A, Fujita T, Fukui S, Morino H, Nakano S, Kusaka H, Yamashita H, Ihara M, Matsumoto R, Kawamata J, Urushitani M, Kawakami H, Takahashi R.	Department of Neurology, Wakayama Medical University	Immunoreactivity of valosin-containing protein in sporadic amyotrophic lateral sclerosis and in a case of its novel mutant	Acta Neuropathol Commun.2:172,2014
59	Murata KY, Maeba A, Yamanegi M, Nakanishi I, Ito H.	Department of Neurology, Wakayama Medical University	Methotrexate myelopathy after intrathecal chemotherapy: a case report	J Med Case Rep.9:135,2015
60	Hama T, Nakanishi K, Shima Y, Sato M, Mukaiyama H, Togawa H, Hamahira K, Tanaka R, Kaito H, Nozu K, Iijima K, Yoshikawa N	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University	Renal biopsy criterion in idiopathic nephrotic syndrome with microscopic hematuria at onset.	Pediatr Nephrol. Mar;30(3): 445-50,2015
61	Yoshikawa N, Nakanishi K, Sato M, Oba MS, Mori R, Ota E, Ishikura K, Hataya H, Honda M, Ito S, Shima Y, Kaito H, Nozu K, Nakamura H, Igarashi T, Ohashi Y, Iijima K	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University	Japanese Study Group of Kidney Disease in Children. A multicenter randomized trial indicates initial prednisolone treatment for childhood nephrotic syndrome for two months is not inferior to six-month treatment.	Kidney Int. Jan;87(1): 225-32,2015
62	Shima Y, Nakanishi K, Hama T, Sato M, Mukaiyama H, Togawa H, Tanaka R, Kaito H, Nozu K, Iijima K, Yoshikawa N.	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University	Biopsy timing and Oxford classification variables in childhood/adolescent IgA nephropathy.	Pediatr Nephrol. Feb;30(2): 293-9,2015
63	Shinichi Yamada	Department of Neuropsychiatry	Microstructural abnormalities in anterior callosal fibers and their relationship with cognitive function in major depressive disorder and bipolar disorder: A tract-specific analysis study	Journal of Affective Disorders
64	川後光正	第一外科	Intraleural administration of gelatin-embedded, sustained-release basic fibroblast growth factor for the regeneration of emphysematous lungs in rats.	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
65	本田賢太郎	第一外科	Prosthesis-patient mismatch in aortic stenosis.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery
66	吉増達也	第一外科	Fast Fourier transform analysis of pulmonary nodules on computed tomography images from patients with lung cancer.	Ann of Thorac and Cardiovascular Surgery
67	本田賢太郎	第一外科	Mechanical valves and anticoagulation in pregnancy.	Circulation Journal
68	岡村吉隆	第一外科	Impact of diabetes mellitus on outcomes in Japanese patients undergoing coronary artery bypass grafting.	Journal of Cardiology
69	Okada K, Kawai M, Tani M, Hirono S, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H	外科学第2講座	Preservation of the left gastric artery on the basis of anatomical features in patients undergoing distal pancreatectomy with celiac axis en-bloc resection (DP-CAR).	World J Surg 38(11):2980-5, 2014
70	Hotta T, Takifuji K, Yokoyama S, Matsuda K, Oku Y, Nasu T, Ieda J, Yamamoto N, Iwamoto H, Takei Y, Mizumoto Y, Yamaue H	外科学第2講座	Impact of the post/preoperative serum CEA ratio on the survival of patients with rectal cancer.	Surg Today 44(11):2106-15, 2014

71	Kiriyama S, Yokoyama S, Ueno M, Hayami S, Ieda J, Yamamoto N, Yamaguchi S, Mitani Y, Nakamura Y, Tani M, Mishra L, Shively JE, Yamaue H	外科学第2講座	CEACAM1 long cytoplasmic domain isoform is associated with invasion and recurrence of hepatocellular carcinoma.	Ann Surg Oncol Suppl 4:S505-14, 2014
72	Iwahashi M, Nakamori M, Nakamura M, Ojima T, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Yamaue H	外科学第2講座	Clinical benefits of thoracoscopic esophagectomy in the prone position for esophageal cancer.	Surg Today 44(9):1708-15, 2014
73	Ueno M, Hayami S, Tani M, Kawai M, Hirono S, Yamaue H	外科学第2講座	Recent trends in hepatectomy for elderly patients with hepatocellular carcinoma.	Surg Today 44(9):1651-9, 2014
74	Tani M, Kawai M, Okada K, Hirono S, Hotta T, Takifuji K, Yamaue H	外科学第2講座	Evaluation of the health-related quality of life for patients following laparoscopic cholecystectomy.	Surg Today 45(5):564-8, 2015
75	Hirono S, Murakami Y, Tani M, Kawai M, Okada K, Uemura K, Sudo T, Hashimoto Y, Nakagawa N, Kondo N, Yamaue H	外科学第2講座	Identification of risk factors for pancreatic exocrine insufficiency after pancreaticoduodenectomy using a 13C-labeled mixed triglyceride breath test.	World J Surg 39(2):516-25, 2015
76	Okada K, Kawai M, Hirono S, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Tani M, Yamaue H	外科学第2講座	A replaced right hepatic artery adjacent to pancreatic carcinoma should be divided to obtain R0 resection in pancreaticoduodenectomy.	Langenbecks Arch Surg 400(1):57-65, 2015
77	Hirono S, Yamaue H	外科学第2講座	Tips and tricks of the surgical technique for borderline resectable pancreatic cancer: mesenteric approach and modified distal pancreatectomy with en-bloc celiac axis resection.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 22(2):E4-7, 2015
78	Yamamoto N, Yokoyama S, Ieda J, Mitani Y, Yamaguchi S, Takifuji K, Hotta T, Matsuda K, Watanabe T, Shively JE, Yamaue H	外科学第2講座	CEACAM1 and hollow spheroid formation modulate the chemosensitivity of colorectal cancer to 5-fluorouracil.	Cancer Chemother Pharmacol 75(2):421-30, 2015
79	Miyazawa M, Kawai M, Hirono S, Okada K, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H	外科学第2講座	Preoperative evaluation of the confluent drainage veins to the gastrocolic trunk of Henle: understanding the surgical vascular anatomy during pancreaticoduodenectomy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 22(5):386-91, 2015
80	Matsuda K, Hotta T, Takifuji K, Yokoyama S, Watanabe T, Mitani Y, Ieda J, Iwamoto H, Mizumoto Y, Yamaue H	外科学第2講座	Clinical characteristics of anastomotic leakage after an anterior resection for rectal cancer by assessing of the international classification on anastomotic leakage.	Langenbecks Arch Surg 400(2):207-12, 2015
81	Ojima T, Nakamori M, Nakamura M, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Takifuji K, Hotta T, Yokoyama S, Matsuda K, Iwahashi M, Yamaue H	外科学第2講座	Laparoscopic combined resection of synchronous gastric and colorectal cancer.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 25(1):43-6, 2015

82	Matsuda K, Hotta T, Takifuji K, Yokoyama S, Oku Y, Watanabe T, Mitani Y, Ieda J, Mizumoto Y, Yamaue H	外科学第2講座	Randomized clinical trial of defaecatory function after anterior resection for rectal cancer with high versus low ligation of the inferior mesenteric artery.	Br J Surg 102(5):501-8, 2015
83	Yamaue H, Tsunoda T, Tani M, Miyazawa M, Yamao K, Mizuno N, Okusaka T, Ueno H, Boku N, Fukutomi A, Ishii H, Ohkawa S, Furukawa M, Maguchi H, Ikeda M, Togashi Y, Nishio K, Ohashi Y	外科学第2講座	Randomized phase II/III clinical trial of elpamotide for patients with advanced pancreatic cancer: PEGASUS-PC Study.	Cancer Sci 106(7):883-90, 2015
84	Okada K, Kawai M, Hirono S, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H:	外科学第2講座	Perioperative administration of Daikenchuto (TJ-100) reduces the postoperative paralytic ileus in patients with pancreaticoduodenectomy.	Hepatogastroenterology 62(138):466-71, 2015
85	Junya Fukai, Koji Fujita, Toshikazu Yamoto, Takahiro Sasaki, Yuji Uematsu and Naoyuki Nakao	和歌山県立医科大学 脳神経外科	Intracranial extension of adenoid cystic carcinoma: potential involvement of EphA2 expression and epithelial-mesenchymal transition in tumor metastasis: a case report.	BMC Research Notes
86	Fukai J, Koizumi F, Nakao N	和歌山県立医科大学 脳神経外科	Enhanced Anti-Tumor Effect of Zoledronic Acid Combined with Temozolomide against Human Malignant Glioma Cell Expressing O6-Methylguanine DNA Methyltransferase.	PLoS ONE
87	山田 宏	整形外科	Improved accuracy of diagnosis of lumbar intra and/or extra-foraminal stenosis by use of three-dimensional MR imaging: comparison with conventional MR imaging	Journal of Orthopaedic Science
88	橋爪 洋	整形外科	Development and evaluation of a video exercise program for locomotive syndrome in the elderly	Mod Rheumatol. 2014 Mar;24(2):250-7
89	南出 晃人	整形外科	Clinical Outcomes after Microendoscopic Laminotomy for Lumbar Spinal Stenosis: A 5-year Follow-up Study	Eur Spine J. Epub 2014 Oct 24
90	岩崎 博	整形外科	A new electrophysiological method for the diagnosis of extraforaminal stenosis at L5-S1	Asian Spine Journal8(2): 145-149, 2014
91	筒井 俊二	整形外科	Augmentation of motor evoked potentials using multi-train transcranial electrical stimulation in intraoperative neurophysiologic monitoring during spinal surgery	J Clin Monit Comput. 2014 Feb 16. [Epub ahead of print]
92	高見 正成	整形外科	A minimally invasive surgery combining temporary percutaneous pedicle screw fixation without fusion and vertebroplasty with transpedicular intracorporeal hydroxyapatite blocks grafting for fresh thoracolumbar burst fractures: prospective study	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2014 Jul;24 Suppl 1:159-65. doi: 10.1007/s00590-013-1266-2. Epub 2013 Jul 5
93	高見 正成	整形外科	Usefulness of full spine computed tomography in cases of high-energy trauma: a prospective study.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2014 Jul;24 Suppl 1:167-71. doi:10.1007/s00590-013-1268-0. Epub 2013 Jul 6

94	Kohjimoto Y, Kusumoto H, Nishizawa S, Kikkawa K, Kodama Y, Ko M, Matsumura N, Hara I	Department of Urology, Wakayama Medical University	External validation of European Organization for Research and Treatment of Cancer and Spanish Urological Club for Oncological Treatment scoring models to predict recurrence and progression in Japanese patients with non-muscle invasive bladder cancer treated with bacillus Calmette-Guerin	Int J Urol 21(12): 1201-1207, 2014
95	Nishizawa S, Inagaki T, Iba A, Kikkawa K, Kodama Y, Matsumura N, Kohjimoto Y, Hara I	Department of Urology, Wakayama Medical University	Zoledronic acid prevents decreases in bone mineral density in patients with prostate cancer undergoing combined androgen blockade	Springerplus 3: 586, 2014
96	谷崎 優子	和歌山県立医科大学産婦人科学教室	Indoleamine 2,3-dioxygenase promotes peritoneal metastasis of ovarian cancer by inducing an immunosuppressive environment.	Cancer Science 105:966-973,2014
97	小林 智子	和歌山県立医科大学産婦人科学教室	Acute fatty liver of pregnancy associated with fetal mitochondrial trifunctional protein deficiency.	J Obstet Gynaecol Res.2014 Nov 25.doi:10.1111/jog.12609.[Epub
98	馬淵 泰士	和歌山県立医科大学産婦人科学教室	Vaginal carcinoma in a young woman who underwent fertility-sparing treatment involving chemotherapy and conservative surgery.	J Obstet Gynaecol Res.2014 Dec 16 .doi:10.1111/jog.12638.
99	Sumioka Takayoshi	Ophthalmology	Impairment of corneal epithelial wound healing in a TRPV1-deficient mouse	Invest ophthalmol Vis Sci
100	Shirau Kumi	Ophthalmology	Effect of the loss of conjunctival Muc16 on corneal epithelium and stroma in mice	Invest ophthalmol Vis Sci
101	Okada Yuka	Ophthalmology	TRPA1 is required for TGF- β signaling and its loss blocks inflammatory fibrosis in mouse corneal stroma	Lab Invest
102	Sumioka Takayoshi	Ophthalmology	Histological analysis of a cornea following experimental femtosecond laser ablation	Cornea
103	Mizoguchi Shin	Ophthalmology	Disruption of eyelid and cornea morphogenesis by epithelial β -catenin gain-of-function	Mol Vis
104	Sugita G, et al.	Otolaryngology Head and Neck Surgery Wakayama Medical University	Genetic characteristics of <i>Haemophilus influenzae</i> and <i>Streptococcus pneumoniae</i> isolated from children with conjunctivitis - otitis media syndrome.	J Infect Chemother. 20(8):493-497, 2014
105	Tamagawa S, et al.	Otolaryngology Head and Neck Surgery Wakayama Medical University	Role of miR-200c/ miR-141 in the regulation of epithelial-mesenchymal transition and migration in head and neck squamous cell carcinoma.	Int J Mol Med.33(4):879-886, 2014
106	Furukawa F	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Practical therapeutics for Skin lesions of Japanese Patients with discoid Lupus Erythematosus.	Expert Opinion on Orphan Drugs 2: 477-482 (doi:10.1517/21678707.2014.901166), 2014
107	Kanazawa N, Tchernev G, Wollina U	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Autoimmunity versus autoinflammation - friend or foe.	Wien Med Wochenschr 164(13-14): 274-277, 2014
108	Yoshimasu T, Furukawa F	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Eradication therapy for urticaria with high titers of anti H.pylori IgG antibody.	Allergology International 63: 37-40, 2014

109	Kaminaka C, Uede M, Matsunaka H, Furukawa F, Yamamoto Y	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Clinical evaluation of glycolic acid chemical peeling in patients with acne vulgaris. a randomized double-blind placebo-controlled split-face comparative study.	Dermatologic Surgery 40: 314-322, 2014
110	Tokuya Omi, Shigeru Sato, Chikako Kaminaka, Yuki Yamamoto, et al.	Department of Dermatology Wakayama Medical University, et al.	Histological study for the treatment of acne scars by fractional RF.	J Clin Exp Dermatol Res 5: 203. doi:10.4172/2155-9554.1000203
111	Mariko Ishiguro, Hideo Hashizume, Takaharu Ikeda, Yuki Yamamoto, Fukumi Furukawa	Department of Dermatology Wakayama Medical University, et al.	Evaluation of the Quality of Life in Lupus Erythematosus Patients with Cutaneous Lesions in Japan.	Lupus 23:93-101, 2014
112	Yutaka Inaba, Nobuo Kanazawa, Fukumi Furukawa, et al.	Department of Dermatology Wakayama Medical University, et al.	Pachyonychia congenita in Japan: report of familial cases with a recurrent KRT16 mutation.	Eur J Dermatol 24: 122-123, 2014
113	Tadao Enomoto, Masanori Sowa, Keiji Nishimori, Shinichiro Shimazu, Akira Yoshida, Kazuko Yamada, Fukumi Furukawa, et al.	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Effects of bifidobacterial supplementation to pregnant women and infants in the prevention of allergy development in infants and on fecal microbiota.	Allergology International 63: 575-585, 2014
114	Ikeda T, Kaminaka C, Yamamoto Y, Furukawa F	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Disseminated cryptococcosis-induced skin ulcers in a patient with autoimmune hepatitis.	Case Reports in Dermatology 6: 98-102, 2014
115	Ito T, Furukawa F, Iwatsuki K, Matsue H, et al.	Department of Dermatology Wakayama Medical University, et al.	Efficacious treatment of psoriasis with low-dose and intermittent cyclosporin microemulsion therapy.	J Dermatol 41:377-381, 2014
116	Kaminaka C, Uede U, Nakamura Y, Furukawa F, Yamamoto Y	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Histological studies of facial acne and atrophic acne scars treated with a bipolar fractional radiofrequency system.	J Dermatol 41:435-438, 2014
117	Takashi Yoshimasu, Mikiko Uede, Nobuo Kanazawa, Naoya Mikita, Yuki Yamamoto, Taisuke Ito, Fukumi Furukawa	Department of Dermatology Wakayama Medical University, et al.	Involvement of Fc ϵ R1 α immunopositive cells in alopecia areata with atopic dermatitis and a high titer of serum immunoglobulin E.	Eur J Dermatol 24:500-503, 2014
118	Ikeda K, Kambe N, Takei S, Nakano T, Inoue Y, Tomiita M, et al.	Department of Dermatology Wakayama Medical University, et al.	Ultrasonographic assessment reveals detailed distribution of synovial inflammation in Blau syndrome.	Arthritis Res Ther 16: R89, 2014
119	Yoshimasu T, Kuramoto T, Kaminaka C, Kanazawa N, Yamamoto Y, Furukawa F:	Department of Dermatology Wakayama Medical University	Efficacy of 0.1% adapalene in a non-inflammatory Kyoto Rhino Rat acne model.	J Dermatol Sci 76:143-148, 2014
120	Shima T, Yamamoto Y, Ikeda T, Furukawa F	Department of Dermatology Wakayama Medical University	A patient with localized scleroderma successfully treated with etretinate.	Case Reports in Dermatology 6:200-206, 2014 (DOI: 10.1159/000367707)
121	岡本健二朗	歯科口腔外科	Effect of interleukin-1beta and dehydroepiandrosterone on the expression of lumican and fibromodulin in fibroblast-like synovial cells of the human temporomandibular joint.	European journal of histochemistry. 2015 Feb 23;59(1):2440. doi: 10.4081/ejh.2015.2440
122	篠原裕志	歯科口腔外科	Inhibition of fibrous adhesion formation in the temporomandibular joint of tenascin-C knockout mice.	European journal of histochemistry. 2014 Oct 22;58(4):2337. doi: 10.4081/ejh.2014.2337
123	藤田茂之	歯科口腔外科	Outcome following lingual nerve repair with vein graft cuff: a preliminary report.	Journal of oral and maxillofacial surgery. 2014 Jul;72(7):1433.e1-7. doi: 10.1016/j.joms.2014.03.018. Epub 2014 Apr 1

124	Sonomura T, Hasegawa S, Takeuchi H, Ishii S, Sato M	Wakayama Medical University, Kishiwada Tokushukai Hospital	Inflammatory myofibroblastic tumor of the lung indistinguishable from adenocarcinoma on imaging studies	Clin Nucl Med 39(8):740-741, 2014
125	Sonomura T, Koyama T, Ishii S, Takeuchi T, Sanda H, Nakata K, Nakai M, Minamiguchi H, Kishi K, Sato M	Wakayama Medical University, Kishiwada Tokushukai Hospital	Acute appendicitis with intestinal malrotation: the usefulness of coronal computed tomography	Intern Med 53(14): 1511-1513, 2014
126	Sonomura T, Kawai N, Kishi K, Ikoma A, Sanda H, Nakata K, Minamiguchi H, Nakai M, Hosokawa S, Tamai H, Sato M	Wakayama Medical University, Kishiwada Tokushukai Hospital, Hokuto Hospital, Watanabe Hospital	N-butyl cyanoacrylate embolization with blood flow control of an arterioportal shunt that developed after radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma	Korean J Radiol 15(2): 250-253, 2014
127	Shirai S, Sato M, Noda Y, Kumayama Y, Shimizu N	Wakayama Medical University	Incorporating GSA-SPECT into CT-based dose-volume histograms for advanced hepatocellular carcinoma radiotherapy	World J Radiol 6(8): 598-606, 2014
128	Nakai M, Sato H, Ikoma A, Sonomura T, Sato M	Wakayama Medical University	The use of technetium-99m-labeled human serum albumin diethylenetriamine pentaacetic acid single-photon emission CT scan in the follow-up of type II endoleak treatment	J Vasc Interv Radiol 25(3): 405-409, 2014
129	Minamiguchi H, Kawai N, Sato M, Ikoma A, Sanda H, Nakata K, Tanaka F, Nakai M, Sonomura T, Murotani K, Hosokawa S, Nishioku T	Wakayama Medical University	Volume-rendered hemorrhage-responsible arteriogram created by 64 multidetector-row CT during aortography: utility for catheterization in transcatheter arterial embolization for acute arterial bleeding	Springerplus 3: 67-74, 2014
130	Sanda H, Kawai N, Sato M, Tanaka F, Nakata K, Minamiguchi H	Wakayama Medical University	Arterial supply to the bleeding diverticulum in the ascending duodenum treated by transcatheter arterial embolization- a duodenal artery branched from the inferior pancreaticoduodenal artery	SpringerPlus 3: 17-21, 2014
131	Ikoma A, Nakai M, Sato M, Sato H, Takeuchi H, Tanaka F, Sanda H, Nakata K, Minamiguchi H, Sonomura T, Nishimura Y, Okamura Y	Wakayama Medical University	Changes in inflammatory, coagulopathic, and fibrinolytic responses after endovascular repair of an abdominal aortic aneurysm: relationship between fibrinogen degradation product levels and endoleaks	Jpn J Radiol 32(6): 347-355, 2014
132	Yu Kawazoe	Department of Emergency and Critical Care Medicine, Wakayama Medical University	The impact of inspiratory pressure on stroke volume variation and the evaluation of indexing stroke volume variation to inspiratory pressure under various preload conditions in experimental animals	Journal of anesthesia 29,515-521,2015
133	Kyohei Miyamoto	Department of Emergency and Critical Care Medicine, Wakayama Medical University	Oxygenation improves during the first 8 h of extended-duration prone positioning in patients with respiratory failure: a retrospective study	Journal of Intensive Care 2,52,2014

小計
10

計
133

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	水野誠、古川福実	和歌山県立医科大学皮膚科	化粧品安全性評価	化粧品の安全安心の科学、島田邦男編、シーエムシー、東京、pp.1-10、2014
2	金澤伸雄	和歌山県立医科大学皮膚科	中條—西村症候群	分子リウマチ治療 7:25-29、2014
3	山本有紀、古川福実	和歌山県立医科大学皮膚科	顔面の色素性病変:病態に則った治療戦略	日本皮膚科学会雑誌 124:2920-2921、2014

小計
3

4	山本有紀、下松達哉、中村靖司、古川福美	和歌山県立医科大学皮膚科他	頭部血管肉腫に対してベバシズマブを使用した1例の組織学的検討	皮膚病診療 36: 349-352、2014
5	米澤寿美子、清水金忠、山本有紀、古川福美	和歌山県立医科大学皮膚科他	ビフィズス菌含有乳酸菌飲料摂取による肌状態改善作用	アレルギーの臨床 34: 872-875、2014
6	今村沙梨、折居 誠、谷本貴志、山野貴司、猪野 靖、山口智由、平田久美子、中村靖司、久保隆史、今西敏雄、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	洞停止による心停止を繰り返した心アミロイドーシスの1例	心臓 46(7): 908-914、2014
7	寒川浩道、猪野 靖、山口智由、戸口幸治、西村好晴、岡村吉隆、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	急性心筋梗塞に合併した左室自由壁破裂の修復術1ヶ月後の再破裂が疑われた1例	冠疾患誌20: 118-121、2014
8	下角あい子、久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	薬剤溶出性ステントに生じるポリマー傷害に関する検討:PROMUS Element Plus StentとResolute Integrity Stentの比較	Boston Scientific社広報誌、2014
9	久保隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	OFDI Technology - Towards New Discoveries, the Imaging Modality Evolution -	テクロス・テルモ株式会社広報誌、2014
10	赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	血管内より詳細に撮影 県立医大教授 技術開発	読売新聞和歌山、2014
11	赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	新しい画像新装置を開発 県立医大の産官学連携 動脈硬化をカラーで。 県立医大の産官学連携	和歌山新報、2014
12	池島英之、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	冠循環補助診断法。「インターベンションのエビデンス2」	南江堂、東京、pp.57-62、2014
13	久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	OCTガイドPCI. 循環器内科	CARDIOANGIOLOGY5 6(6): 533-540、2014
14	Orii M, Imanishi T, Akasaka T	和歌山県立医科大学循環器内科	Essential Roles of Monocytes/Macrophages in Acute Myocardial Infarction.	Myocardial Infarctions: Risk Factors, Emergency Management and Long-Term Health Outcomes, Nova Science Publishers, pp.139-156, NY, 2014
15	Kume T, Kubo T, Akasaka T	和歌山県立医科大学循環器内科	Histology Validation of OCT Images.	Editor Ik-Kyung Jang, Cardiovascular OCT Imaging, Springer : 39-52, 2014
16	寺口郁子、平田久美子、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	冠動脈疾患を診断する最も優れた検査法は何か。	心エコー15(4): 358-365、2014
17	折居 誠、平田久美子、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	僧帽弁狭窄症	第4章 循環器, 内科 増大号 2014年6月: 1231-1232, 2014
18	折居 誠、平田久美子、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	僧帽弁逆流症	第4章 循環器, 内科 増大号 2014年6月: 1233-1235, 2014
19	松尾好記、久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	次世代型光干渉断層法(OCT)の可能性 IV. 次世代の血管画像解析,	The Lipid 25(3): 104-108, 2014
20	塩野泰紹、久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	心筋梗塞と心筋灌流領域-FFRの意義- 心筋梗塞最前線	治療96(3): 259-264, 2014
21	北端宏規、久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	血管内OCTの現状と展望. 特集: 動脈硬化-病態・診断・治療のUpdate-	最新医学8(69): 67-75, 2014
22	平田久美子	和歌山県立医科大学循環器内科	心尖部直抗交2断面はあるか?!	心エコー15(9): 890-895, 2014
23	谷本貴志、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	MRIを用いた心臓弁膜症診断. 特集 心臓弁膜症診療のニューパラダイム	成人病と生活習慣病: 817-822, カラー図譜7: 759, 2014
24	久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	5. VH-IVUSで何がわかるか. 特集Beyond Angiography 2014	Coronary Intervention 10(5): 36-41, 2014
25	久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	循環器学2014年の進歩 冠疾患学研究の進歩-内科学系の進歩-	日本循環器学会専門誌 循環器専門医22(2): 283-287, 2014
26	谷本貴志、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	Functional MRへの対応. 特集 心不全治療戦略の最前線-その点描	循環器内科76(2): 154-160, 2014
27	赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	巻頭言 ベッドサイド心エコーへの回帰-重症心血管疾患を見逃さない!	心エコー15(11) 2014
28	折居 誠、平田久美子	和歌山県立医科大学循環器内科	呼吸困難-急性心不全・肺血栓塞栓症	心エコー15(11): 1030-1040, 2014

29	山野貴司	和歌山県立医科大学循環器内科	コラム 欧州心臓病学会議2014に参加して	心エコー15(11):1106-1109, 2014
30	折居 誠, 平田久美子	和歌山県立医科大学循環器内科	心サルコイドーシス. 特集 心エコーでみる心筋性状診断-心筋疾患へのアプローチ	心エコー15(12):1116-1122, 2014
31	赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	巻頭言 特集 心エコーでみる心筋性状診断-心筋疾患へのアプローチ	心エコー15(12), 2014
32	赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	OCTによるVulnerable Plaque診断と治療効果評価	動脈硬化Update 2014: 21-24, 2014
33	久保隆史, 赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	OCTガイドPCI. 特集 予後を改善するPCIを目指して	循環器内科76(6):533-540, 2014
34	鈴木一正、粉川豊、津田嶺雪、呉海元、久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	循環器OCT画像の解析と3次元再構築	情報処理学会全国大会投稿論文
35	松尾好記、久保隆史、赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	動脈硬化のイメージング最前線	Medical Science Digest.41(1):12-15, 2015
36	久保隆史, 赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	OCTによる冠動脈プラーク評価と臨床応用 - OCTの現状と将来. Clinical application of OCT on the assessment of coronary atherosclerosis.	別冊・医学のあゆみ. 循環器と画像診断Update. 2015, Page 111-117. 編集:赤阪隆史. 医歯薬出版株式会社(東京). 2015.2.20. 第1版第1刷発行.
37	太田慎吾・赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	遅延造影による心筋評価。	別冊・医学のあゆみ. 循環器と画像診断Update. 2015:49-54, 2015
38	北端 宏規, 久保隆史, 赤阪隆史	和歌山県立医科大学循環器内科	III. 虚血性心疾患 2. 脆弱性プラーク(Vulnerable plaque)の同定と治療	「Annual Review 循環器2015」2015 Pages 75-85. 中学医学社(東京).

小計
10

計
38

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 【倫理委員会】現在、作成中 【臨床倫理委員会】「和歌山県立医科大学附属病院臨床倫理委員会規程」 1 構成メンバー 2 所掌事務 3 申請の手続き 4 審議結果の通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	合計 年15回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメント委員会の任務、審議事項、組織、議事、委員の任期など	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 厚生労働省 吉岡 恭子 先生 「医師主導型臨床試験データ質保障のための京大アクションプラン」 京都大学 森田 智視 先生	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【糖尿病・内分泌・代謝内科】

日本糖尿病学会糖尿病研修指導医 4 名、同学会糖尿病専門医 5 名、日本内分泌学会内分泌代謝科研修指導医 6 名、同学会内分泌代謝科専門医 2 名の指導の下、各々の学会の専門医研修カリキュラムに従い研修を実施している。

【消化器内科】

関連施設との連携により多数の症例が集まる肝臓、胃癌、大腸癌をはじめとする消化器悪性腫瘍を標的に、研修内容を①上部消化管及び胆膵、②下部消化管、③肝臓の3つに分けてグループで専門医としての研修を行っている。消化管及び胆膵系悪性疾患に対しては内視鏡を中心とした診断法の精度、効率の向上に努めつつ、早期病変に対する内視鏡的粘膜下切除術 (ESD) などの治療手技の習得を目標としている。その他、消化器疾患診療に対するdynamic imageの導入、H. pylori除菌や肝炎ウイルスに対するインターフェロン療法などによる慢性炎症制御による当該領域の予後の改善、急性出血例に対する対応を含めた酸関連疾患の制御、慢性炎症性腸疾患の治療、特に治療抵抗例に対する白血球除去療法をはじめとする治療法の習得、肝臓に対する経皮的ラジオ波焼灼療法、進行癌に対するQOLに配慮した化学療法をはじめとする集学的治療などに力点を置いて研修を行っている。

【呼吸器内科・腫瘍内科】

呼吸器系に関して種々の問題を抱える患者を、一般医として適切に管理できるようになるために、呼吸器や換気の機構とそれらの異常を惹起する原因について理解し、診断・治療上の問題解決能力を取得する。

【循環器内科】

循環器疾患の診療を通じて、心エコー、運動負荷試験、心臓CT、心臓MRI、心臓カテーテル検査、薬物治療など循環器内科医として必要な基礎的な能力を身に付ける。

【腎臓内科】

腎臓内科医として修練は勿論であるが、それに先立つ基本的な医師としての職業倫理観と責任感に加えて、良好な人間関係を築かせヒューマニズムについても共に歩みつつ指導する。

腎臓内科としての基本的知識・手技について以下の項目を重点的に指導と教育を行なう。

酸塩基平衡、体液異常の診断と輸液療法、腎疾患の診断と治療の基本、腎生検組織の読影、血液浄化法の知識と安全管理、慢性腎臓病患者における臓器相関を通じた他科との連携、急性腎障害を軸にした救急医学との連携などを基本領域とする。

【血液内科】

血液内科一般と難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を行っている。日本血液学会の認定血液研修施設である。

【神経内科】

当科では中枢神経・末梢神経・骨格筋の病理研究を精力的に行っている。中枢神経に関しては、剖検脳のブレインカッティングを科長の伊東が自ら行い、医局員全員が参加する臨床病理検討会 (CPC) で指導している。また、和歌山県南部には世界的に注目されている紀伊ALS/PDCの多発地域があり、当科ではその分子病態解明と分子標的治療法の開発を目指している。紀伊ALS/PDCはGuam島ALS/PDCとの類縁性が示唆されているため、Guam島ALS/PDCを世界で初めて報告した世界的な神経病理学者のAlbert Einstein医科大学Asao Hirano教授を毎年5月にお招きし、セミナーを本学で開催している。このセミナーでは、平野教授によるブレインカッティングや神経病理セミナーが行われ、本学の

みならず、学外から多数の医師が参加している。また、当科では、院内や県下の医療機関で加療中の神経筋疾患症例に対し、末梢神経や筋生検を年間20例施行している。生検は、当科の医師が自ら行い、当研究室で標本を作製し、医局員全員が参加する神経・筋病理検討会で供覧し、迅速な診断に努めている。

【小児科】

小児科学全般にわたる知識、態度、判断力及び診療技術の習得を目的とする。研修は日本小児科学会の小児科専門医を目指す医師が研修すべき教育目標として作成された「小児科医の到達目標」に則しており、小児科専門医の取得に必要な関連領域（小児外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、眼科、産婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリ科）知識の習得も満たすことができ、3年間の研修を終了後は日本小児科学会専門医の受験資格を取得できる。当研修施設は、大学病院であるとともに和歌山県の子ども病院の機能も備えており、心臓外科、腹部外科、脳神経外科等の小児外科疾患の手術症例も豊富である。また、一次から三次の小児救急患者も随時受け入れており、小児のプライマリーケアから高度先端医療までの全てを満たした研修を行うことが可能である。

【神経精神科】

医局医師は11名（精神保健指定医7名、精神科専門医6名、後期研修医3名）で、年間入院患者150名、外来200名に対応している。精神病床指定（閉鎖）40床と、一般病棟1床を有す。日本神経学会専門医制度研修施設、日本総合病院精神医学会特定研修施設認の認定を受けている。県における基幹病院として身体合併症を有する患者の受け入れの他、下記の各種の専門的医療を運営している：電気けいれん療法、クロザリル療法、磁気刺激療法、認知行動療法、うつ病患者職場復帰支援（医療リワーク）、緩和医療参加、リエゾン外来、てんかん専門外来、認知症疾患医療センターなど。

【心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科】

当科では、心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科に関する研修を行っている。心臓血管外科では、成人心疾患、小児先天性心疾患、大血管および末梢血管の疾患を主に取り扱い、それらの疾患に対する術前評価、手術適応の決定、手術、術前術後管理について研修することができる。呼吸器外科では、主に肺癌を取り扱い、それ以外には縦隔疾患、胸壁疾患、気管・気管支の病変、胸膜疾患、転移性肺腫瘍などが主である。心臓血管外科と同様に術前評価、手術適応の決定、手術、術前術後管理について研修するとともに、抗がん剤治療、気管支鏡検査および治療についても研修することができる。乳腺外科では、対象疾患の多くが乳癌であり、それ以外に良性の乳腺疾患がある。術前の評価・診断、手術、術前・術後管理の他、術後補助療法や再発癌の治療についても研修することができる。

【消化器・内分泌・小児外科】

内視鏡外科研修（ブタ使用による腹腔鏡手術手技・開腹手術手技の研修）、顕微鏡下動脈吻合術の手術手技研修（ラット使用による微細脈管の顕微鏡下再建手技の研修）、外科・内視鏡外科手術手技研修（ドライラボ機器の使用による縫合結紮手技の研修）、臨床研究カンファレンス

【脳神経外科】

脳腫瘍、脳血管障害、機能外科、脊髄・脊椎外科などのサブスペシャリティ領域の研修が可能である。各領域に2名程度の研修統括者を配置し、研修医の指導を行っている。それぞれの領域において、他施設から紹介された患者に対して高度医療を1週間あたり2～3症例の頻度で行われており、研修医は短期間でも効率的に密度の高い研修が行える。

【整形外科】

頸椎、胸椎、腰椎変性疾患における脊椎内視鏡手術（年一回の学内整形外科内視鏡カダバーセミナー、また全国から脊椎外科医が参加する和歌の浦低侵襲脊椎外科セミナー開催）、脊柱変形に対す

る各種脊柱矯正再建手術、ナビゲーション、0-armを用いた脊椎手術、各種低侵襲脊椎固定手術、マイクロサージェリーを用いた手の外科再建、肩関節・股関節・膝関節等の関節鏡視下手術、股関節・膝関節の人工関節置換術、骨軟部腫瘍の診断と治療、救急と連携した急性期四肢体幹骨折手術、脊髄損傷手術、手の外科外傷手術

【形成外科】

形成外科は、外傷、腫瘍、先天異常による欠損や変形の病態を把握し、診断法を習熟した後、再建法のプランニングが立案できることを目標とする。そして、形成外科は特定の臓器を持たないため、チーム医療の重要性を示す。

【泌尿器科】

泌尿器科疾患全般にわたる診断および治療についての研修を行う。腹腔鏡手術、ロボット支援手術、尿路内視鏡手術、ESWL（体外衝撃波結石破砕術）などの低侵襲手術に加え、難易度の高い開腹手術や腎移植術の症例が経験できる。また、泌尿器悪性腫瘍に対する抗癌化学療法、排尿障害などの良性疾患なども多く経験できる。

【産科・婦人科】

産科婦人科においては、産科婦人科専門医(11名)の指導の下、全ての領域における研修を行っている。サブスペシャリティに関しても産科では周産期母体胎児専門医3名、婦人科では婦人科腫瘍専門医3名の指導の下、ハイレベルな研修を行っている。県下唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩の豊富な症例数を有し、また婦人科癌手術症例も多数ありハイレベルな研修が可能である。

【眼科】

1年目は、まず眼科医師として、視覚に問題のある患者との接遇を指導する。知識や検査技術の習得と、手術では介者としての参画を中心とし、原則白内障の執刀は2年目以降とする。さらに、この年度では手術適応の決定は指導医にゆだねる。眼科研修委員長と研修施設長によって任命された指導医がマンツーマンで指導し、担当症例の診察、治療に可能な限り同席させる。

2年目から3年目では、1年目の研修内容を継続しつつ、さらに検査に習熟し、手術の適応決定ができるように指導する。手術適応の決定と患者や関係者への説明と同意の取得まで担当させる。これらが完了した段階で、指導医が参画して、最終決定に至らせる。ついで、症例の頻度にもよるが、指導の下に手術を開始させるが、術中合併症の対処は指導医にゆだねる。

4年目以降では、3年目の研修内容を継続しつつ、上級の手術への移行をめざすが、術中合併症の対処は指導医にゆだねる。また、日々の指導医とのコミュニケーションの中で、専門医取得後の将来の専門性の方向付けのインシエーションなども随時、織り交ぜてゆく。眼科研修医の研究成果の評価は、それぞれのプログラムの責任者となっている眼科専門医によって個別に行われた上で、眼科研修委員長と研修施設長によって実施される。評価は最終年度の日本眼科学会専門医認定試験の受験申し込みの前の4ヶ月をかけておこなう。研修が完遂されたと判断された場合、日本眼科学会専門医認定試験の受験を許可する。

【耳鼻咽喉科】

耳鼻咽喉科学教室は、「世界的な視野で研究・診療を！一紀州から世界へ発信」をモットーに掲げ、研究・臨床・教育に日々努力を惜しまず活動している。耳鼻咽喉科・頭頸部外科に関して豊富な実績を持つことから、和歌山県内はもちろん、大阪府南部、三重県、奈良県などの近隣地区から多くの患者が集まって来る。そのため幅広い症例を経験し、オールラウンドに対応できる力を養うことができ、めまい、感染症、甲状腺疾患などの頻度の高い疾患に関して、豊富な臨床経験を積むことができる。さらに、人工内耳手術や頭頸部癌に対する微小血管外科を用いた再建手術など、最先端の手術・治療を進めており、ハイレベルな知識や技術も身に付けることができる。研究にも積極的に取り組んでおり、「海外でも研究をしたい」と声をあげれば、多くの海外連携施設への留学実現をバックアップしている。

【皮膚科】

皮膚疾患を診断するには、患者さんの話に耳を傾け、皮疹をよく観察することから始める。後期研修では、患者さんの背景と皮疹から、鑑別診断を列挙する訓練を行う。視診の補助手段として、ダーモスコープや超音波検査の手ほどきを受けることも可能です。

外来では、専門医の診察を見学し、問診のポイントや皮疹を見るコツを習得。早い人は、後期研修がスタートして、数か月で外来診察を開始。自分の目で観察して、わからないことは、専門医に訊ねて、知識を広げる。皮膚生検や簡単な外来手術は指導医のもと、積極的に行う。代表的な皮膚疾患については、初心者向けの病理組織勉強会が定期的に行われる。

当教室が重点を置いている分野の1つが、免疫アレルギー。免疫アレルギーが病態に深くかかわる皮膚疾患、たとえば、膠原病や自己免疫性水疱症、薬疹について幅広い知識を修得することが可能。皮内テスト、プリックテスト、貼布試験など、アレルギー皮膚疾患の基本検査は、ルーチンに施行。MED、MPD、光貼布試験などの光線検査にも習熟。

治療については、全身療法、外用療法を問わず、適応、使用法副作用、禁忌の理解。全身療法では、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗腫瘍薬、免疫抑制薬、副腎皮質ステロイド、消炎鎮痛薬、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬のほか、レチノイドやDDS、血漿交換にも熟知。外用療法では、副腎皮質ステロイド外用剤、非ステロイド抗炎症剤、保湿剤、免疫調整外用剤、ビタミンD3外用剤、抗真菌剤、抗潰瘍剤が中心。また、皮膚外科、レーザー療法については体験する機会が多い。光線療法も随時施行。

当教室は、アトピー性皮膚炎やケミカルピーリング、血管炎、ざ瘡、蕁麻疹、疥癬、血管腫などのガイドライン作成にも積極的に関与してきた経緯があり、系統的な治療法が、比較的短期間で習得できる。

後期研修については以下のとおり。

目標：皮膚科専門医を目指す。日本皮膚科学科入会、5年間後に資格を得る。その間、学会発表、論文、講習会の所定の単位を得る。資格を満たした後は、専門医試験を受ける。

更に、皮膚悪性腫瘍と美容皮膚・レーザー指導専門医コースがある。

学ぶべき事：皮膚科全般。

専門医を取得後は、アレルギー、リウマチ膠原病、皮膚外科、皮膚腫瘍学、皮膚病理学、美容皮膚科などの専門性を徐々に習得するようにする。

コース：

- 1年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。
- 2年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。
- 3年目 各人の希望を聞き教室の状況を判断から、おおむね、
 - 1) 和医大皮膚科で臨床を続ける、
 - 2) 大学院（勤務しながら研究生を送る社会人大学院もいます）、
 - 3) 関連病院で研鑽、など。

その後は、外国留学、国内留学などのコースがあります。ちなみに、過去、米国コロラド大学、米国ケースウェスタンリザーブ大学、京大膠原病内科、兵庫医大リウマチ・膠原病科に留学しています（ほぼ2年間）。

【歯科口腔外科】

1年目：厚生労働省の規定に従った歯科一般の研修を中心に口腔外科の初歩を研修。

2年目：麻酔科研修4か月；麻酔科指導医のもと、種々の診療科の手術の麻酔研修。

救急部研修2か月；救急処置、救急蘇生、外傷への対応。

歯科口腔外科研修6か月；口腔疾患の診断・治療、外来小手術、全身麻酔下の手術、病棟管理、口腔ケア等。

その他：学会発表、基礎研究、臨床研究。

【放射線科】

放射線科の大きな3つの柱は画像診断、IVR治療、放射線治療で、これらの3つは密接に関連してい

る。画像診断では、単純X線写真、CT、MRI、RI、冠動脈CT、マンモグラフィ、CTコロノグラフィなどの読影を学ぶことができる。IVR治療では、肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術、胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術、大動脈瘤に対するステントグラフト留置術などを体験できる。放射線治療では、リニアックによる3次元照射、トモセラピーによる強度変調放射線治療(IMRT)、イリジウム線源を用いた小線源治療(組織内・腔内照射)に触れることができる。

【救急科】

高度救命救急センターにおいて、和歌山県内の救急患者を救急車による陸路搬送で年間5,500人、ドクターヘリによる航空搬送で年間約400人を受け入れており、緊急手術や血管内治療など高度な救命処置が必要となる最重症の救急症例を多数経験することができる研修施設である。高度救命救急センターは、施設内に救急車搬送患者の対応と共に、時間外に来院したウォークイン救急症例にも対応するER外来を整備しており、数多くの救急患者の中から高度医療が必要となる症例をトリアージして専門医診療科に引き継ぐことのできる診療技術の習得が可能である。研修医は、ローテーション期間内に、ICU、HCU、救急入院一般病棟、ERの各部門を経験し、院内各専門診療科に配属となった後期研修医と共に、全診療科のバックアップ体制の下で、救急集中治療を習得する。当院附属の救命救急センターは、専従医師数で全国266の救命救急センター中2番目に多い37名を要しており、救命救急センターの評価結果でも常に上位に位置している。

【麻酔科】

後期研修医に対しては、4年間の麻酔科研修プログラムを作成し、それに準じて麻酔研修を行っている。研修プログラムは、臨床薬理学・臨床生理学を理解し、術前評価・術中管理・術後管理ができるような内容となっている。低リスクの症例から高リスクの症例まで安全で質の高い周術期管理ができるようにプログラムを構成している。

麻酔科専門医取得後には、さらに高度な研修を行うための研修プログラムを設置している。関連領域の認定医および専門医を取得できるように、心臓麻酔コース、区域麻酔コース、小児麻酔コース、ペインクリニックコース、緩和医療コースを設置している。

したがって、麻酔専門医からサブスペシャリティー取得まで可能な研修システムを備えている。

【病理診断科】

病理・細胞診断学を臨床医学の一分野と位置づけ、臨床に有益な診断を提供するための知識と技術の体得を目標とする。大学の附属病院として、全身諸臓器、様々な組織における組織診・細胞診が対象となる。

病理学総論および各論の観点から、科学的、論理的かつ客観性の高い診断アプローチ法を身につけ、また部署内カンファレンスをほぼ毎日行い、より精度が高く、再現性の高い病理診断方法を学ぶ。標本作製から診断に至るまでの精度管理について知識を習得する。国内および国際的に標準化された基準を習得し、それに則り診断を行えるよう教育する。分子病理学的解析手法など最新医学の病理診断への応用を学ぶ。

日本病理学会、日本臨床細胞学会などの学会に参加し、新たな知見の取得に取り組み、診断能力の向上に努めると同時に、積極的に学会発表、論文発表を行い本学発の情報を発信する。

2 研修の実績

研修医の人数	66人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
赤水 尚史	糖尿病・内分泌代	教授	34年	

	謝内科			
加藤 順	消化器内科	准教授	22年	下部消化管
玉井 秀幸	消化器内科	講師	24年	肝臓
井口 幹崇	消化器内科	講師	22年	上部消化管
中西 正典	呼吸器内科・腫瘍内科	講師	22年	
赤阪 隆史	循環器内科	教授	34年	
穂積 健之	循環器内科	准教授	30年	
田中 篤	循環器内科	准教授	26年	
久保 隆史	循環器内科	准教授	24年	
猪野 靖	循環器内科	講師	19年	
松尾 好記	循環器内科	講師	17年	
山野 貴司	循環器内科	助教	16年	
亀山 剛義	循環器内科	助教	13年	
黒井 章央	循環器内科	助教	14年	
折居 誠	循環器内科	助教	12年	
塩野 泰紹	循環器内科	助教	12年	
重松 隆	腎臓内科	診療科長、教授	30年	血液浄化センター長 ・臨床工学センター長 も兼務
伊東 秀文	神経内科	教授	30年	
園木 孝志	血液内科	教授	26年	
鈴木 啓之	小児科	准教授	33年	
武内 崇	小児科	講師	27年	
南 弘一	小児科	講師	25年	
神波 信次	小児科	講師	24年	
中西 浩一	小児科	講師	25年	
熊谷 健	小児科	講師	19年	
島 友子	小児科	講師	17年	
篠崎 和弘	神経精神科	教授	37年	
岡 徳彦	心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科	講師	18年	
山上 裕機	消化器外科	教授	34年	
窪田 昭男	消化器外科	学長特命教授	40年	
瀧藤 克也	消化器外科	病院教授	31年	
堀田 司	消化器外科	教授(腫瘍制御・薬物治療学講座)	26年	
中森 幹人	消化器外科	准教授	22年	
川井 学	消化器外科	講師	20年	
松田 健司	消化器外科	講師	19年	
上野 昌樹	消化器外科	講師	19年	
尾島 敏康	消化器外科	講師	16年	
廣野 誠子	消化器外科	講師	15年	
中尾 直之	脳神経外科	教授	29年	
小倉 光博	脳神経外科	准教授	27年	
増尾 修	脳神経外科	講師	22年	

西岡 和哉	脳神経外科	講師	22年
西林 宏起	脳神経外科	講師	21年
深井 順也	脳神経外科	講師	18年
八子 理恵	脳神経外科	助教	14年
吉田宗人	整形外科	教授	32年
朝村 真一	形成外科	教授	21年
原 勲	泌尿器科	教授	30年
井篁 一彦	産科婦人科	教授	28年
雑賀 司珠也	眼科	教授	27年
山中 昇	耳鼻咽喉科	教授	40年
古川 福実	皮膚科	教授	37年
山本 有紀	皮膚科	准教授	25年
金澤 伸雄	皮膚科	講師	21年
池田 高治	皮膚科	講師	16年
上中 智香子	皮膚科	講師（寄附講座）	16年
藤田 茂之	歯科口腔外科	教授	34年
園村 哲郎	放射線科	准教授	28年
白井信太郎	腫瘍センター	講師	30年
武内 泰造	放射線科	講師	21年
南口 博紀	放射線科	講師	19年
中井 資貴	放射線科	講師	19年
中田 耕平	放射線科	助教	11年
三田 裕記	放射線科	助教	10年
加藤 正哉	救急・集中治療部	高度救命救急センター長	33年
岩崎 安博	救急・集中治療部	ER医長	23年
木田 真紀	救急・集中治療部	ICU医長	17年
藤田 浩二	救急・集中治療部	HCU・救急一般病棟 医長	22年
川股 知之	麻酔科	教授	25年
村田 晋一	病理診断科	教授	29年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- ・研修の主な内容 別紙「平成26年度継続教育計画」
「平成26年度補助員研修」のとおり
- ・研修の期間・実施回数 別紙「平成26年度教育実績」
「平成26年度補助員研修」のとおり
- ・研修の参加人数 別紙「平成26年度教育実績」
「平成26年度補助員研修」のとおり

【薬剤部】（対象：医療クラーク）

- ・研修の主な内容：「薬学一般に関する知識」（薬物の礎知識及び麻薬・向精神薬について）
「抗凝固剤・降圧剤に関する知識」
「インスリン・抗がん剤に関する知識」
- ・研修の期間・実施回数：平成26年8月26日、8月27日、10月29日 各60分
- ・研修の参加人数：各々25名

【中央検査部】

- ・研修の主な内容 新しい臨床検査や検査機器についての有用性や各種疾患とその検査方法など
- ・研修の期間・実施回数 平成26年度中・25回（1回30分）
- ・研修の参加人数 延べ566人（平均22.6人/回）

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容 新規導入された0-Armイメージングの基本的概念とアプリケーショントレーニング
- ・研修の期間・実施回数 H26. 4. 3 1回
- ・研修の参加人数 7名

- ・研修の主な内容 ハイブリッドアンギオシステム安全取扱、操作説明
- ・研修の期間・実施回数 H26. 4. 18 1回
- ・研修の参加人数 5名

- ・研修の主な内容 MRモニタリングシステム緊急使用時の注意点
- ・研修の期間・実施回数 H26. 5. 15、16日 2回
- ・研修の参加人数 10名

- ・研修の主な内容 ヨード造影剤の副作用ー予防と対策ー
- ・研修の期間・実施回数 H26. 5. 29 1回
- ・研修の参加人数 20名

- ・研修の主な内容 新規診療報酬取得の大腸CT検査の注意点
- ・研修の期間・実施回数 H26. 6. 27 1回
- ・研修の参加人数 10名

- ・研修の主な内容 MR対応輸液ポンプの理解すべき操作と安全取扱いについて
- ・研修の期間・実施回数 H26. 7. 23 1回
- ・研修の参加人数 7名

- ・研修の主な内容 自動注入器SALIENT機能説明と注意事項の認識について

- ・研修の期間・実施回数 H26. 10. 2 1回

- ・研修の参加人数 15名

- ・研修の主な内容 新規導入装置アーム型X線CT診断装置AUGE SOLIDの操作説明・安全取扱いについて

- ・研修の期間・実施回数 H26. 11. 25～28日 4回

- ・研修の参加人数 20名

- ・研修の主な内容 CT画像評価ファントムCTP700の評価方法について

- ・研修の期間・実施回数 H26. 12. 4 1回

- ・研修の参加人数 10名

- ・研修の主な内容 乳房X線撮影装置の進むべき方向性について（トモシンセンスの現状）

- ・研修の期間・実施回数 H26. 12. 9 1回

- ・研修の参加人数 10名

【リハビリテーション部】

- ・研修の主な内容 和医大リハビリテーション科研修会

テーマ：脳障害の痙性足部変形への簡易形成術と下肢装具

講師：特定医療法人 順和 長尾病院 リハビリテーション科 浅山 滉 先生

テーマ：リハ医に必要なスポーツ障害の知識

講師：国立大学法人群馬大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学分野 教授 白

倉賢二 先生

・研修の期間・実施回数 平成26年4月5日 1回

・研修の参加人数 46名

・研修の主な内容 リハ科研究検討会&特別セミナー

テーマ：閉塞性動脈疾患における運動昇圧反射

講師：浜松医科大学附属病院リハビリテーション部助教 山内克哉先生

・研修の期間・実施回数 2014年5月1日 1回

・研修の参加人数 35名

・研修の主な内容 第20回リハビリテーション科 大学院研究内容発表会

・研修の期間・実施回数 平成26年10月24日 1回

・研修の参加人数 33名

・研修の主な内容 リハ科特別セミナー

テーマ：運動時における熱中症予防の対策とその機序について

講師：信州大学学術研究院・先鋭領域融合研究群・バイオメディカル研究所・先端疾患予

防学部門 上條義一郎 先生

・研修の期間・実施回数 平成26年10月21日 1回

・研修の参加人数 37名

【病態栄養治療部】

・研修の主な内容

研修会名：NST勉強会

研修内容：栄養管理の重要性を認識し、適切な栄養処方を行うための専門的な知識と技術
の習得を目的とする

・研修の期間・実施回数：平成26年4月～平成27年2月 11回

・研修の参加人数：318名

【臨床工学センター】

・研修の主な内容 呼吸器の取扱い方法等

・研修の期間・実施回数 呼吸器を使用する部署に対して必要時

・研修の参加人数 7～20名程度

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【薬剤部】

・研修内容：採用医薬品の研修

・研修期間及び実施回数：H26.4～H27.3 34回

・参加人数：延べ560人

【中央放射線部】

・研修の主な内容 救急外来でのCT検査の撮影統一と画像作成の標準化

・研修の期間・実施回数 H26.8.5 1回

・研修の参加人数 7名

・研修の主な内容 撮影装置に患者情報を読み込むときの手順の再確認

・研修の期間・実施回数 H26.9.5 1回

・研修の参加人数 10名

・研修の主な内容 東芝INFX-8000Cで脳外科血管撮影を行うことに対する業務時の注意点

・研修の期間・実施回数 H26. 9. 5

・研修の参加人数 10名

・研修の主な内容 平成26年下半期中央放射線部でのインシデントの状況および予防策について

・研修の期間・実施回数 H27. 2. 3、5日 2回

・研修の参加人数 6名

・研修の主な内容 救急撮影室における患者転落事例について（業務改善の検討）

・研修の期間・実施回数 H27. 3. 2、3、5日 3回

・研修の参加人数 15名

【リハビリテーション部】

・研修の主な内容 「リハビリテーション科の理念 ―医学としてのリハビリテーション―」

リハビリテーション科教授 田島文博

・研修の期間・実施回数 平成26年4月14日 1回

・研修の参加人数 24名

・研修の主な内容 「リハ科における業務・教育体制の確立 ―臨床に根差した教育・研究を目指して―」

リハビリテーション部療法士長 上西啓裕

・研修の期間・実施回数 平成26年4月21日 1回

・研修の参加人数 24名

・研修の主な内容 「リスクマネジメント ―緊急時対応とリスク管理―」

リハビリテーション科准教授 中村 健

・研修の期間・実施回数 平成26年5月1日 1回

・研修の参加人数 24名

・研修の主な内容 「バルーンカテーテル」

・研修の期間・実施回数 平成26年5月7日 1回

・研修の参加人数 24名

・研修の主な内容 「リハビリテーションを実施するうえで必要な輸液ルート管理の知識」

リハビリテーション科看護師 下出さゆり

・研修の期間・実施回数 平成26年6月16日 1回

・研修の参加人数 24名

・研修の主な内容 「リハ部紹介 急性期医療におけるリハビリテーション医学の役割」

リハビリテーション部療法士長 上西啓裕

・研修の期間・実施回数 平成26年6月25日 1回

・研修の参加人数 研修医40名

【臨床工学センター】

・研修の主な内容 臨床工学センターが使用中点検や定期点検を行う機器の基礎

・研修の期間・実施回数 各機器に対して年1回

・研修の参加人数 当センター職員

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

平成26年度 継続教育計画

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

育成センター:高度医療人育成センター 生涯センター:生涯研修センター

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

レベル研修のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合 記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	GIO(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシート の種類	事後課題 レポート (ある場合 のみ記載)
新人(新人看護職員臨床研修) 専門職としての基礎的知識・技術・態度を学ぶ 部署の方針に基づいて安全な看護の実践をめざす	新規採用職員研修	新規採用 看護職員	4/1(火) 8:45~17:30 4/2(水) 8:45~17:30 4/3(木) 8:45~12:00、 13:00~16:15	4/1 講堂 4/2 基礎教育棟 4/3 生涯研修センター	別紙参照	講義	組織の機能と役割を知り、組織が目指していること、 看護職の役割を理解する	★組織の機能と役割が述べることができる	なし	
	新規採用看護職員宿泊研修		4/11(金)13:45~ 4/12(土)12:00	休暇村紀州加太	ICF認定コーチ 渡辺照子	講義 ロールプレイ グループ討議		◆①なりたい看護士像(自分の目標)を述べることができる ◆②1年後の目標とそのための具体的な取り組みを記載できる	別途提示あり	
	看護倫理	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)	6月6日(金) 16:00~17:30	育成センター5階	がん看護専門看護師 温井由美	講義	看護の倫理綱領について理解する	★職業人としての自覚をもち、倫理に基づいて行動する	なし	
	看護記録	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)	4/28(月) 16:00~17:30	育成センター5階	看護記録委員	講義	看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に記載 する方法がわかる	★①看護記録の目的を述べることができる ★②看護記録記載基準を理解し、基準に沿った看護記録を記載できる	なし	
	看護必要度	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)	5月	部署	教育担当者ほか部署指導者	講義	フォーカスチャータニングの基本や構成要素につ いて理解する	★フォーカスチャータニングの構成要素について述べることができる	なし	
	BLS,AED	新規採用 看護職員	(1回6Gで30人) 16:00~17:30 (1回6Gで30人) 16:00~17:30 (1回6Gで30人) 16:00~17:30	育成センター2階	インストラクター医師・看護師	e-learning 実技	救命救急の基本的な知識と技術を習得する	★①成人に対する一時救命処置が実施できる ★②AEDを使用できる	なし	
	看護技術(安全管理)	新人看護職員 (新規学卒)	4月	部署	教育担当者ほか 安全管理リンクナース	e-learning 実技	根拠に基づいた安全確保の技術を習得する	★①施設における医療安全管理体制を知っている ★②医療安全に関する院内マニュアルを知っている ★③転倒転落防止策が実施できる	なし	
	看護技術(感染管理)	新人看護職員 (新規学卒)	4月	部署	教育担当者ほか 感染管理リンクナース	e-learning 実技	根拠に基づいた感染防止の技術を習得する	★①衛生的な手洗いができる ★②必要な防護用具が選択でき、正しく着脱できる ★③医療廃棄物の規定に沿った適切な取り扱いができる(分別処理がで きる)	なし	
	看護技術(安楽な体位、褥瘡予防)	新人看護職員 (新規学卒)	5月	部署	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	根拠に基づいた褥瘡の予防技術を習得する	★①褥瘡予防に適切なポジショニングを理解し、実施できる ★②安楽な体位の保持ができる	なし	
	看護技術(静脈注射)	新規採用 看護職員	5月	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	静脈注射実施に必要な知識・技術を習得する	★①静脈注射における感染予防と安全対策について述べられる ★②注意すべき薬剤や投与時の注意事項が述べられる ★③静脈注射の基本知識(解剖生理)について述べられる ★④合併症・副作用の早期発見と早期対応の方法が述べられる ★⑤手順に基づき、ピギーバッグ法とヘパリンロック法が実施できる ★⑥誤薬防止の手順(5R)に沿った与薬ができる ★⑦患者誤認防止策が実施できる ★⑧スタンダードプリコーションが実施できる ★⑨無菌操作が実施できる ★⑩医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑪針刺し事故防止対策が実施できる	なし	
看護技術(血糖測定)	新人看護職員 (新規学卒)	4月	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	根拠に基づいた安全な血糖測定の技術を習得する	★①正常な血糖値、低血糖値、低血糖症状がわかる ★②手順に基づき血糖測定が実施できる ★③患者誤認防止策が実施できる ★④スタンダードプリコーションが実施できる ★⑤必要な防護用具が選択できる ★⑥医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑦針刺し事故防止策が実施できる	なし		
看護技術(インスリン製剤取り扱い)	新人看護職員 (新規学卒)	5月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	インスリン製剤の取り扱いについて必要な知識と技 術を習得する	★①インスリン製剤の種類と用法が言える ★②インスリン注射が手順通り実施できる ★③インスリンの作用と副作用を理解し、観察ができる ★④誤薬防止の手順(5R)に沿った与薬ができる ★⑤患者誤認防止策が実施できる ★⑥スタンダードプリコーションが実施できる ★⑦無菌操作が実施できる ★⑧医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑨針刺し事故防止対策が実施できる	なし		

平成26年度 継続教育計画

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

育成センター:高度医療人育成センター 生涯センター:生涯研修センター

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

レベル研修のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合 記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	GIO(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシート の種類	事後課題 レポート (ある場合 のみ記載)
新人 (新人看護職員 臨床研修)	看護技術(経管栄養法)	新人看護職員 (新規学卒)	5月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	根拠に基づいた安全な経管栄養の技術を習得する	★①手順に基づき経管栄養法が実施できる ★②患者誤認防止策が実施できる ★③スタンダードプリコーションが実施できる ★④医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる	なし	
	看護技術 (輸血、血液製剤の取り扱い)	新人看護職員 (新規学卒)	6月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning デモンストレーション	輸血、血液製剤の取り扱いに必要な知識と技術を習得する	★①輸血、血液製剤の請求・受領についてルールを理解し、実施できる ★②輸血、血液製剤の特徴に応じた保管場所・方法が分かり、実施できる ★③輸血の準備、介助、および輸血中と輸血後の観察ができる ★④患者誤認防止策が実施できる ★⑤スタンダードプリコーションが実施できる ★⑥無菌操作が実施できる ★⑦医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑧針刺し事故防止対策が実施できる	なし	
	看護技術 (麻薬・毒薬・劇薬・向精神薬 取り扱い)	新人看護職員 (新規学卒)	7月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning デモンストレーション	麻薬・毒薬・劇薬・向精神薬の取り扱いに必要な知識と技術を習得する	★①薬剤の請求・受領についてルールを理解し、実施できる ★②薬剤の特徴に応じた保管場所・方法が分かり、実施できる ★③麻薬の主作用と副作用について観察できる(状況的に観察が困難な場合:～について言える)	なし	
	看護技術 (フィジカルアセスメントⅠ-1)	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)	1回目 4/24(木) 2回目 4/30(水) 3回目 5/8(木) 4回目 5/14(水) 16:00~17:30	育成センター5階	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	根拠に基づいた観察の技術を習得する	★①バイタルサイン(呼吸、脈拍、体温、血圧)を正しく測定できる ★②呼吸、脈拍、体温、血圧の正常・異常がわかる	なし	
	看護技術 (静脈血採血)	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)		育成センター2階	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	根拠に基づいた安全な静脈血採血の知識と技術を習得する	★①手順に基づき静脈血採血が実施できる ★②採血後の検体の取り扱いができる ★③患者誤認防止策が実施できる ★④スタンダードプリコーションが実施できる ★⑤必要な防護用具が選択できる ★⑥無菌操作が実施できる ★⑦医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑧針刺し事故防止策が実施できる	なし	
	看護技術(輸液ポンプ操作)	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)		育成センター2階	テルモ(株)	実技	輸液ポンプとシリンジポンプの知識と技術を習得する	★①手順に基づき輸液ポンプの操作と管理ができる ★②手順に基づきシリンジポンプの操作と管理ができる	なし	
	看護技術(車いすへの移乗と移送)	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)	育成センター2階	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	患者の身体状態に応じた、安全な車椅子の移送技術を習得する	★①車椅子への移乗が安全にできる ★②車椅子を使用し、安全に目的の場所に移送できる	なし		
	看護技術 (フィジカルアセスメントⅠ-2)	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)	9月3日(水) 16:00~17:30 9月5日(金) 16:00~17:30	生涯研修センター3階 生涯研修センター3階	集中ケア認定看護師 泉仁美	講義	観察により得た情報をアセスメントし、必要な看護ケアを考えられる	★①系統的かつ客観的事実の情報収集ができる ★②集められた情報から正しくアセスメントできる ★③必要な看護ケアを考えることができる	共通	
	夜勤研修	新人看護職員 (新規学卒)	5月~ 準夜1回、深夜1回	部署			夜勤看護師の実践している看護を見学し、夜勤時の看護の特徴を理解する	♥夜間の看護の特徴を日勤との違いから述べることができる (患者の特徴、チームワーク、安全管理)	共通	
	ローテーション研修	新人看護職員 (新規学卒)	9/9(月)~2/14(金)の うち、ひとり2週間	部署			他部署で実践している看護を経験し、基本的な看護実践能力を養う	♠他部署の看護(知識・技術・態度)を経験し、学んだことを述べるができる。 学んだことを実践につなげていくことができる	共通 (2クール終了後)	
	メンバーシップⅠ	新人看護職員 (新規学卒)	7月22日(火) 15:00~17:30 7月25日(金) 15:00~17:30	育成センター5階 育成センター5階	教育委員 教育担当者	グループ討議	看護チームの一員として役割を理解し行動できる	★メンバーシップを発揮するために、自分がとるべき行動を具体化し、実施できる	メンバーシップⅠ	
	メンバーシップⅡ	新人看護職員 (新規学卒)	12月2日(火) 15:30~17:30 12月3日(水) 15:30~17:30	生涯研修センター3階 生涯研修センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	メンバーとしての役割や看護実践の到達度を認識できる	♠①具体化した自分がとるべき行動を実施し、できるようになったことを確認できる ♠②1年目の終了時に自分がどうなっていたいかを再確認できる	メンバーシップⅡ	
	メンバーシップⅢ	新人看護職員 (新規学卒)	2月13日(金) 16:00~17:30 2月16日(月) 16:00~17:30	生涯研修センター3階 生涯研修センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	1年間の看護の実践を振り返り、次年度にむけて自己の課題を言語化できる	♥①研修で気づき、自分がこれから看護や業務を行ううえで役立てられることを述べるができる ★②社会人として、専門職業人(看護師)として課題とすることを2年目の目標管理に計画立案できる	メンバーシップⅢ	
	看護記録 フォーカスチャータリング	新規採用看護職員 (経験者は必要に応じる)	7月1日(火) 16:00~17:30 7月2日(水) 16:00~17:30	生涯研修センター3階 生涯研修センター3階	看護記録委員	講義 グループ討議	フォーカスチャータリングの基本に基づいて、フォーカスチャータリングを記載する	★指導を受けながらフォーカスコラムが記載できる ★指導を受けながらDARが記載できる	共通	

平成26年度 継続教育計画

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

育成センター:高度医療人育成センター 生涯センター:生涯研修センター

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

レベル研修のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合 記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	GIO(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシートの種類	事後課題 レポート (ある場合のみ記載)	
レベルなし I保有者	メンバーシップ研修	2年目看護師(必須)	6月2日(月) 16:00~17:30	育成センター5階	教育委員 教育担当者	グループ討議	部署での役割遂行や自立した看護実践に向けて行動できる	◆◆自立して看護を実践していくために、自己の現状・課題を整理できる ★自分がとるべき行動にしたがって実践できる	共通		
			6月3日(火) 16:00~17:30	育成センター5階							
	看護マネジメントの基本 -楽しんで!リーダーシップ-	2年目看護師(必須)		11月10日(月) 13:00~15:00	生涯研修センター3階	和歌山大学経済学部 准教授 厨子直之	講義	看護管理の基本を理解し、組織の一員として行動できる能力を養う	♥組織の一員としての組織役割がわかる ♥リーダーシップの基本的な考え方がわかる	看護マネジメントの基本	
				11月10日(月) 15:30~17:30	生涯研修センター3階						
	看護を語ろう	レベルなし		9月19日(金) 16:00~17:30	生涯研修センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	実践してきた看護を言語化し、自分が大切にしている看護を明確にする	◆①部署のなかで自分がおこなっている看護を話すことができ、他の看護師の看護への思いを聴くことができる ★②実践してきた看護を意味づけし、語るすることができる	看護を語ろう	心に残った看護場面(リーダー申請の実践レポートと同様でもよい)
				9月22日(月) 16:00~17:30	生涯研修センター3階						
	がん看護	レベルI保有者で がん看護を1年以上実践している者		1回目6月30日(月) 16:15~17:30	東棟1階会議室	がん看護専門看護師 温井由美 がんに関する認定看護師 石徹白しのぶ 樫山美佳	講義	がん看護の特殊性、治療とケアの概要を理解し、がん看護の実践能力を養う	♥がんの病態、治療の概要、がん患者と家族の心理過程を理解し、がん患者のケアのありかたを考えることができる ♥手術療法における意思決定の支援方法を理解し、意思決定の支援をえることができる ♥放射線療法・化学療法の有害事象を理解し、患者のセルフケア能力を高めるケアをえることができる ♥緩和ケアの概要を理解し、がん性疼痛のある患者のケアをえることができる ♥がん患者の意思決定を支援するコミュニケーション能力を高めることができる ★受持ちがん患者の看護計画を立案し、看護を実施し評価することができる	がん看護 (各回終了ごと)	事例整理シート
				2回目7月29日(火) 16:15~17:30	育成センター5階						
				3回目8月25日(月) 16:15~17:30	育成センター5階						
				4回目9月30日(火) 16:15~17:30	大会議室						
5回目10月28日(火) 16:15~17:30				大会議室							
フィジカルアセスメントII	レベルI保有者 (max33人)		1回目 10月8日(水) 16:00~17:30	生涯研修センター3階	教育委員	講義 演習	患者急変時のアセスメント能力、臨床判断能力、看護実践能力を養う	◆①フィジカルアセスメント技術を活用し、患者におこっている病態をアセスメントできる ◆②アセスメントから看護問題を考え、看護介入できる ◆③チームが効果的に機能するために必要なコミュニケーション、リーダーシップ、メンバーシップについて気づくことができる ◆④急変時にも院内できめられたルールにのっとり医療安全行動がとれる	共通 (各回終了ごと)		
			2回目 1月22日(木) 1チーム3人90分×11クール	育成センター2階	IMI 教育委員	実技					
教育指導者入門	レベルI保有者で今後レベルII申請予定者 院内外の教育・臨床指導に関する研修未受講者		1回目 9月10日(水) 14:30~17:30	生涯研修センター3階	和歌山大教育学部 教授 米澤好史	講義	教育心理学の視点から、人材育成に必要な知識を学ぶ アサーティブなコミュニケーション技術を習得する	♥①学んだことの中から何がわかったか整理できる ★②後輩に関心を持って、自分から声をかけて支援できる ★③対象の個性を理解できる	人材育成入門 (学びは各回終了ごと)		
			2回目 10月3日(金) 14:30~17:30	生涯研修センター3階	和歌山大教育学部 教授 米澤好史	講義					
			3回目 11月14日(金) 14:30~17:30	生涯研修センター3階	臨床心理士 坂田真穂	講義					
II保有者	私のキャリアデザインを考える	II保有者かつ看護師経験10年未満	1回目 6月12日(木) 16:30~17:30	大会議室	スタッフナース 各部署 教育担当者	講義 講演	自分のキャリア・アンカー(価値観の明確化)を確認し、今後のキャリアデザインについて考え、取り組む姿勢を養う	◆①看護師としてキャリアをデザインしてきているプロセスを言語化できる ♥②自分のキャリア・アンカーがわかり自己の考えを整理することができる	私のキャリアデザインを考える		
			2回目 10月21日(火) 16:00~17:30	東棟1階会議室		グループ討議					
	“ふれ”ないために -論理的思考を学ぼう-	レベルII保有者		1回目 10月31日(金) 14:30~17:30	生涯研修センター3階	愛媛大学医学部附属病院 医療福祉支援センター長 樫本真幸	講義 グループ討議	問題解決のための論理的思考を身につける	◆①集団のなかで、自分の意見を述べ、他者の意見を聞くことができる ◆②目的を見失わずに論点整理ができる	共通 (2回終了後)	
				2回目 2月2日(月) 14:30~17:30	生涯研修センター3階						
	看護研究をしようI	II保有者 *2回目(文献検索)は全レベル対象の公開講座		1回目 6月23日(月) 15:30~17:30	生涯研修センター3階	保健看護学部教授 森岡郁晴	講義 グループ討議	研究のプロセスを体験し、研究計画書を作成する能力を養う	◆①文献検索の方法がわかる ◆②研究計画書の書き方がわかる	看護研究をしようI (4回終了後)	
				2回目 7月10日(木) 15:30~17:30	育成センター1階	保健看護学部 志茂淳子					
				3回目 11月28日(金) 14:30~17:30	生涯研修センター3階	保健看護学部教授 森岡郁晴					
				4回目 12月12日(金) 14:30~17:30	生涯研修センター3階						
	看護マネジメントI	II保有者		1回目 5/30(金) 14:30~17:30	育成センター5階	多羅尾美智代	講義	組織のなかで自分の立場を理解し、主体的にリーダーシップをとるための能力を養う	♥リーダーシップのあり方がわかる ♥自己成長のために必要なことを述べる ♥★自分がとるべき行動にしたがって持続的に実践できる	看護マネジメントI 1回目	
				2回目 1月30日(金) 16:00~17:30	生涯研修センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議			看護マネジメントI 2回目	

平成26年度 継続教育計画

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

育成センター:高度医療人育成センター 生涯センター:生涯研修センター

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

レベル研修のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合 記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	GIO(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシートの種類	事後課題レポート(ある場合のみ記載)
Ⅲ保有者 自己教育力に基づきキャリアアップをはかる	退院支援・退院調整	レベルⅢ保有者または今後ラダーレベルⅢ申請予定者	1回目10月29日(水) 16:00~17:30	東棟1階会議室	地域連携室 福岡有里子	講義	患者が安心して生活の場に戻るために必要な退院支援調整能力を養う	♥退院支援の基本的な考え方を理解する ♥自部署の退院調整に関する課題を明確にし、解決に向けて取り組むことができる	退院支援・退院調整各回終了ごと	
			2回目11月12日(水) 16:00~17:30	生涯研修センター3階	地域連携室 福岡有里子 訪問看護師	講義				
			3回目1月16日(金) 16:00~17:30	生涯研修センター3階	地域連携室 福岡有里子	講義				
自己教育力に基づきキャリアアップをはかる	看護研究をしようⅡ	次年度に自己の研究発表を予定している者 1回目の研修前に研究計画書の提出ができる者	1回目 12月12日(金) 14:30~17:30	生涯研修センター3階	保健看護学部教授 森岡郁晴	グループ討議	看護研究をクリティークする能力を養う 看護研究をおこなう能力を養う	▲①研究した内容の批評吟味ができる ♥②グループ討議の内容をふまえて、自己の研究を批評吟味(クリティーク)できる ★調査方法、研究のデータ収集、分析方法がわかり、自己の研究に活用できる	看護研究をしようⅡ(2回終了後)	
			2回目 2月12日(木) 16:00~17:30	大会議室	保健看護学部教授 森岡郁晴	講義(個別指導含む)				
自己教育力に基づきキャリアアップをはかる	看護マネジメントⅡ	Ⅲ保有者またはチームリーダーの経験者	10月6日(月) 14:30~17:30	生涯研修センター3階	和歌山大学経済学部 准教授 厨子直之	講義 グループ討議	人的資源を活用し、部署の力を高めるための能力を養う	★スタッフのモチベーションを高める仕組みを理解し、実践できる	共通	
			10月18日(土)	育成センター5階	株式会社オーセンティックス 高田 誠	講義 演習	M-S-Tメソッドを活用し、看護管理者に必要なマネジメント能力を養う		共通	
マネジメント 組織の中で与えられた役割を果たす	管理Ⅰ研修	副看護師長(必須)	10月18日(土)	育成センター5階	株式会社オーセンティックス 高田 誠	講義 演習	M-S-Tメソッドを活用し、看護管理者に必要なマネジメント能力を養う		共通	
	管理Ⅱ研修	看護師長(必須)	10月18日(土)	育成センター5階	株式会社オーセンティックス 高田 誠	講義 演習	M-S-Tメソッドを活用し、看護管理者に必要なマネジメント能力を養う		共通	
役割別 組織の中で与えられた役割を果たす	チューター研修	チューター(必須)	1回目6月16日(月) 15:30~17:30	生涯研修センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	チューターが指導者としての役割を遂行できる能力を養う	♥新人看護職員研修における指導上の問題や困難、不安・負担感を軽減する解決方法を見出せる	チューター	
			1回目6月17日(火) 15:30~17:30	生涯研修センター3階						
			2回目2月4日(水) 16:00~17:30	生涯研修センター3階	教育委員 教育担当者	報告会 グループ討議				
			2回目2月6日(金) 16:00~17:30	生涯研修センター3階						
	看護技術指導者研修	技術指導者のリーダー1名	7月15日(火) 16:00~17:30	育成センター5階	教育委員 教育担当者	グループ討議	看護技術指導者が指導者としての役割を遂行できる能力を養う	▲看護技術指導者の役割がわかる ★新人看護職員に対する教育的な関わり方を共有し、実践できる	なし	
チューター準備研修	平成27年度チューター 予定者	3月3日(火) 13:30~17:15 3月4日(水) 8:45~12:30	生涯研修センター3階 生涯研修センター3階	新人看護職員研修責任者 ICF認定コーチ 渡辺照子	講義 ロールプレイ グループ討議	新人看護職員研修制度と指導者役割を理解する 新人看護職員研修におけるチューターの役割を遂行できる能力を養う	♥①新人看護職員研修ガイドラインの背景にある新人看護職員をめぐる現状と課題が述べられる ♥②当院看護部の新人看護職員研修制度、チューターの役割を説明できる ♥③新人看護職員を育てるための姿勢や態度、コミュニケーション方法について具体策が述べられる	共通		
専門コース 専門職としてのスキルアップをはかり、組織全体のブラッシュアップのために力を発揮する	クリティカルケアコース	ラダーレベルⅡ保有者 研修の学びを部署の問題解決につなげられる者 学びを部署で伝達できる者 クリティカルケア入門受講済の者	6月19日(木)	育成センター2階	認定看護師 田村直子 泉 仁美 高野裕子	講義 実技	クリティカルケアの専門的知識を学び、指導的立場がとれ、実践できる能力を高める	★①患者の状態を適切にアセスメントできる ★②患者の変化に気づき、適切な対応ができる ★③研修で習得した知識を部署のスタッフに指導できる	共通 (コース終了後)	
			8月21日(木)	育成センター2階						
			11月5日(水)	育成センター2階						
			12月18日(木)	育成センター2階						
			2月19日(木)	育成センター2階						
	教育指導者コース	人材育成入門研修 受講修了者またはラダーレベルⅡ保有者	10月27日(月)	生涯研修センター3階	和歌山大学教育学部 教授 米澤好史	講義	学生、スタッフ個々に応じた教育的かかわりができる	★①後輩育成に積極的にかかわることができる ♥②自己の経験と学びを統合し、指導の方向性を見出すことができる ★③見出した指導の方向性をもとに実践できる	共通 (コース終了後)	
			11月21日(金)	育成センター5階	臨床心理士 坂田真穂	講義				
			12月22日(月)	育成センター5階	教育委員会	グループ討議				
			1月27日(火)	大会議室	教育委員会	グループ討議				
			2月24日(火)	大会議室	教育委員会	グループ討議				

平成26年度教育実績

対象レベル 研修名 日時 実施時間 控除対象時間 控除時間(分) 参加人数 対象以外
の参加 合計控除時間(分) 時間数(分)/月 合計控除時間/月 追加参加者名や欠席等

新規採用	新規採用 看護職員	4月1日	8:45~17:30	8:45~16:15	450	75		33750			任期付採用午前中のみ参加
新規採用		4月2日	8:45~16:30	8:45~16:15	450	75		33750			
新規採用	ビジネスマナ	4月3日	8:45~12:00	8:45~12:00	195	40		7800			
新規採用	ビジネスマナ	4月3日	13:00~17:30	13:00~16:15	195	35		6825			
新規採用	医療安全・感染・医療	4月8日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	75	2	1155			3月就職ICU東 任期付岡本参加
新人	宿泊研修	4月11日	14:00	14:00~16:15	135	66	9	10125			
新人		4月12日	12:00	8:45~12:45	240	66	9	18000			
新人	看護技術	4月24日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	66	2	1020			ICU:岡本、東参加
新人	看護記録	4月28日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	65		975			OP:谷奥欠席(発熱)
新人	看護技術	4月30日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	66	2	1020	114420	1907	
新人	メンタルヘルス	5月2日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	66		990			
新人	看護技術	5月8日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	66	2	1020			
新人	看護技術	5月14日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	66	2	1020			
II	看護マネジメント I	5月30日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	23		2415	5445	90.75	
2年目	メンバーシップ研修	6月2日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	36		540			
2年目	メンバーシップ研修	6月3日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	36		540			
新人	看護倫理	6月6日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	64	1	975			OP谷奥、宮崎欠席
II	私のキャリアデザイン	6月12日	16:30~17:30	なし		18					
役割	チューター研修	6月16日	15:30~17:30	15:30~16:15	45	33		1485			
役割	チューター研修	6月17日	15:30~17:30	15:30~16:15	45	33		1485			
コース	クリティカルケアコース	6月19日	17:30~19:00	なし		4					戸口欠席
II	研究をしよう I ①	6月23日	15:30~17:30	15:30~16:15	45	7		315			
なし	がん看護1回目	6月30日	16:15~17:30	なし		16		0	5340	89	
新人	看護記録(フォーカス)	7月1日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	39		585			
新人	看護記録(フォーカス)	7月2日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	34		510			10西賀川病欠
II	研究をしよう I ②	7月10日	15:30~17:30	15:30~16:15	45	17		765			
役割	看護技術指導者研修	7月15日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	21		315			
新人	メンバーシップ I	7月22日	15:00~17:30	15:00~16:15	75	32		2400			6東坂口欠席
新人	メンバーシップ I	7月25日	15:00~17:30	15:00~16:15	75	32		2400			10西賀川病休中
I	がん看護2回目	7月29日	16:15~17:30	なし	0	16		0	6975	116.25	
コース	クリティカルケアコース	8月21日	17:30~19:00	なし	0	4		0			戸口欠席
I	がん看護3回目	8月25日	16:15~17:30	なし	0	16		0			
新人	フィジカルアセスメント	9月3日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	37		555			
新人	フィジカルアセスメント	9月5日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	29	1	450			10西賀川病休中
I	教育指導者入門	9月10日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	40		4200			10東林欠席
なし	看護を語ろう	9月19日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	38		570			
なし	看護を語ろう	9月22日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	33		495			5西名倉 10西高橋欠席
I	がん看護4回目	9月30日	16:15~17:30	なし	0	16		0	6270	104.5	
I	教育指導者入門	10月3日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	41		4305			OP茂野欠席
III	看護マネジメント II	10月6日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	18		1890			
なし~ I	フィジカルアセスメント	10月8日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	33		495			
新人	メンタルヘルス III	10月16日	16:30~17:30	なし		65		0			10西賀川病休
II	私のキャリアデザイン	10月21日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	18		270			
III	退院支援・退院調整	10月29日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	22		330			
コース	教育指導者コース	10月27日	17:30~19:00	なし		5		0			聴講者10名
I	がん看護5回目	10月28日	16:15~17:30	なし		15		0			9西米田病欠
II	ぶれないために	10月31日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	13		1365	8655	144.25	
コース	クリティカルケアコース	11月5日	17:30~19:00	なし		4		0			
2年目	看護マネジメントの基	11月10日	13:00~15:00	13:00~15:00	120	32		3840			
2年目	看護マネジメントの基	11月10日	15:30~17:30	15:30~16:15	45	36		1620			
III	退院支援・退院調整	11月12日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	22		330			
I	教育指導者入門	11月14日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	39		4095			
コース	教育指導者コース	11月21日	17:30~19:00	なし		5		0			
II	研究しよう I ③	11月28日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	6		630	10515	175.25	
新人	メンバーシップ II	12月2日	15:30~17:30	15:30~16:15	45	32		1440			前地欠席
新人	メンバーシップ II	12月3日	15:30~17:30	15:30~16:15	45	32		1440			
II	研究しよう I ④	12月12日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	6		630			
II	研究しよう II	12月12日	14:30~17:30	14:30~16:15	105	3		315			
コース	クリティカルケアコース	12月18日	17:30~19:00	なし		4		0			
コース	教育指導者コース	12月22日	17:30~19:00	なし		4		0	3825	63.75	
III	退院支援・退院調整	1月16日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	22		330			
I	クリティカル入門	1月22日	一人90分		90	33		2970			
コース	教育指導者コース	1月27日	17:30~19:00	なし		5		0			
II	看護マネジメント I	1月30日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	22		330	3630	60.5	
II	ぶれないために	2月2日	14:30~17:30	14:30~16:15	45	13		585			
役割	チューター研修	2月4日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	33		495			
役割	チューター研修	2月6日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	31		465	1545	25.75	
III	研究しよう II	2月12日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	3		45			
新人	メンバーシップ III	2月13日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	32		480			
新人	メンバーシップ III	2月16日	16:00~17:30	16:00~16:15	15	32		480	1005	16.75	
役割	チューター準備	3月3日	13:30~17:15	13:30~16:15	165	26		4290			
役割	チューター準備	3月4日	8:45~12:30	8:45~12:30	225	17		3825			9西南欠席

平成26年度看護補助員研修

医療チームの一員として看護補助員業務を理解し、自分の役割をはたす

- SBO:
1. 看護補助員の業務と責任の範囲を述べることができる
 2. 患者・家族の気持ちに配慮し対応できる

	日時	開催場所	講師	主な方法	内容	参加人数
第1回	5月29日	看護部会議室	岡本部長 岡室副部長	講義	1. 看護部組織内での看護補助員の立場・役割 2. 接遇について注意すること	23
	5月30日					19
	6月3日					13
	6月6日					11
第2回	7月30日	看護部会議室	池下センター長 保田副センター長	DVD鑑賞 グループ討議	1. 「看護補助者の業務上の責任と倫理」DVD鑑賞 2. グループ討議	23
	7月31日					26
	8月4日					17
第3回	11月17日	スキルスラボ	保田副センター長	e-ラーニング視聴 演習	1. 食事介助(学研ナーシングサポート視聴) 2. 車いす移送(演習)	18
	11月18日					22
	11月20日					8
	11月27日					16

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2.) 現状
管理責任者氏名	病院長 吉田 宗人
管理担当者氏名	事務局長 大西 範昭

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		経理課 医事課 医療情報部 薬剤部 各診療科	平成22年4月以前のカルテ等は中央病歴室において集中管理。平成22年5月より、電子カルテが稼働しており、電子媒体に保存されている。診療録の持ち出しについては診療記録管理要項で禁止されている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	経理課	
	高度の医療の提供の実績	医事課 経理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	経理課	
	閲覧実績	医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経理課・薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 吉田 宗人	
閲覧担当者氏名	医事課長 佐々木 美夫、経理課長 太田 恭弘、 医療安全推進部長 水本 一弘	
閲覧の求めに応じる場所	医事課、経理課	
閲覧の手続の概要 閲覧の求めに応じて開示。(一部はホームページなどに掲載)		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容： 安全で質の高い医療を提供するため、病院長の指揮のもとに、医療安全推進委員及びゼネラルリスクマネージャーならびにリスクマネージャーを中心に、職員総参加の下で、全職員一丸となって、附属病院における医療の安全管理対策に、積極的に取り組む。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容： 平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。 ア 医療の安全管理のための基本指針の策定に関すること イ 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること ウ 医療安全推進のための職員研修等に関すること エ 職員総参加の医療安全推進に関すること オ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年18回
<p>・研修の主な内容： 平成26年度実施状況 ・外部講師による講演「医療安全の要～リスクマネージャーの役割とは～」(5月) ・「緊急コール：RRS/METとは 要請基準の変更」(5月) ・外部講師による講演「医薬品安全管理責任者共催」「医療用麻薬の適正管理について」(6月) ・DVD研修「転ばぬ先の知恵～黄門さまと一緒に学ぼう、安全に病院生活を送る知恵～」(9月・2月～3月) ・外部講師による講演「周術期およびその他急性期治療における静脈血栓塞栓症の予防」(10月) ・「抗がん剤の血管外漏出予防と対応」(11月) ・外部講師による講演「クラーク参入によるチーム医療の充実と医療安全」(2月) ・呼吸ケアチーム共催「呼吸ケアチーム実践報告」「人工呼吸バンドルとアプローチの実際」(3月) ・eラーニング〈医療機器安全管理者共催〉「医療機器を安全に使用するために『人工呼吸器編』&『除細動器編』」(7月～3月) ・DVD研修「生死を分けるコミュニケーション技術」(2月～3月) ・DVD研修「患者さんとのトラブルを避けるためには」(2月～3月) ・基礎研修〈医療情報部共催〉「電子カルテセキュリティとシステムトラブル発生時の対応」(4月) ・基礎研修「バルーンカテーテルの取り扱い」(5月) ・基礎研修「肺血栓塞栓症の予防」(5月) ・基礎研修「心電図モニターのアラームと安全管理」(5月) ・基礎研修「呼吸ケアについて」(5月) ・基礎研修「輸液の取り扱い」(6月) ・BLS研修「一次救命処置」(13回開催) その他(研修会受講回数には加算しない学習会)〈平成26年度開催実績〉 ・研修医セミナー(4月～3月 19回)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の推進に努めている。レポ</p>	

<p>ートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、医療安全推進部内で、週1回定例事例検討会を行い、医療安全推進委員会、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策の周知徹底を行っている。 特にアクシデント事例は、医療安全推進委員会で分析と安全管理に係る改善策等について検討協議を行うとともに、医療事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会で審議している。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (8名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (17) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ア 医療安全推進委員会の庶務に関すること イ 医療事故調査委員会の庶務に関すること ウ 医療事故等に関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること エ 医療事故発生時の対応状況の確認と指導に関すること オ 医療事故等の報告に関すること カ 医療事故等の原因究明の確認と指導に関すること キ 医療安全に関する研修その他職員の意識向上に関する指導 ク インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価 ケ 医療安全推進委員会及び医療事故調査委員会の運営に必要な事務 コ 診療録及び看護記録当の記載事項の確認と指導 サ 医療安全推進委員会で決定された改善策の実施状況、現状との整合性等についての検証に関する業務 シ 医療安全に係る連絡調整に関すること ス その他医療の安全推進に必要な業務全般 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的な考え方2. 院内感染対策のための組織に関する基本事項3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本指針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染症の予防に関すること2. 感染症予防対策の部門間調整に関すること3. 感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析に関すること4. 感染症予防対策実施の教育、計画、指導及び勧告に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年11回
<p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. B型肝炎ウイルス再活性化のリスクマネジメント2. 化学療法における好中球減少時の感染対策3. 結核の診療・感染防止対策4. 感染防止対策地域連携加算にかかる相互チェックの講評5. DVD研修《 2.化学療法における好中球減少時の感染対策 》6. 2014年度院内インフルエンザ講習会7. ノロウイルス対策について8. 手洗い講習会9. 和歌山県におけるエイズの現状と対策について・中核拠点病院の役割10. 結核感染診断の新しい可能性－Tスポット、TB検査について－11. e-ラーニング《事例から学ぶ 血液・体液曝露対策》	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ICTが院内ラウンドを実施し、院内各部署の感染管理状況の把握と現場への個別指導を行ない感染対策マネジャーは、ICTと協力して部署内の感染対策に当たる。 また、細菌検査室からの細菌分離情報は、感染制御部に報告され、検討の上、感染予防対策委員会に報告するとともに病院内各部署に周知する。</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. サーベイランスの実施（針刺し切創等血液曝露、耐性菌、医療器具関連感染、手術部位感染）2. 感染対策マニュアルの整備3. 院内巡回時のマニュアル遵守状況確認4. 薬剤耐性菌感染症判定と治療確認、血流感染症調査5. ICTwebの活用6. 各部署への情報共有（各病棟の細菌検出状況レポート・無菌材料検出菌報告の配布等）	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容： 1. 平成26年6月26日 「医療麻薬の適正管理」 2. 平成26年11月26日 「抗がん剤の血管外漏出予防と対応」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務においては、当該部署と検討し、改善している。 手順書についても必要時改訂している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医薬品・医療機器等安全性情報については、製薬企業MRからの情報提供のほかインターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報については、DIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。 2. 定期的な情報以外に緊急を要するものについては随時情報提供を行う。 3. 情報提供は文書配布及び電子カルテシステムのポータルサイトへの掲載を行っている。 4. 緊急かつ重要な情報は院内メールを活用し、医師をはじめとする医療スタッフに周知徹底を図る。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. eラーニングによる、呼吸器及び除細動装置の研修2. 臨床工学センター、医療安全推進部共催での「モニタアラームについて」や「呼吸管理」等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (○有・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">年度初めに計画し、機器別に点検期間を決め実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全推進部より、書面にて配布2. メーカー等書面により配布3. 必要であれば、臨床工学センターにおいて書面作成し配布	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 2013年1月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ 病院広報誌「まんだらげ」	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 がんセンター (腫瘍センター/転移性骨腫瘍、肝がん、消化器がん、肺がん、乳がん、甲状腺がん、 頭頸部がん)	